KENWOOD

デジタル サラウンド アンプ

KAF-S500

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

付属のリモコンについて

本機のリモコンは、従来のリモコンに比べて多くの操作モードを持っています。
リモコンを有効に使用するためにもこの取扱説明書をよくお読みになり、リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたなどをよくご理解の上でご使用ください。
リモコンのしくみ、操作モードの切り換えかたを知らないまま操作すると、正しく操作できないことがあります。

B60-5391-18 01 (CH) (J) KW 0304

取扱説明書の使用方法

本書は、準備編、操作編、リモコン操作編、その他、の4つの章に分かれています。

準備編

安全上のご注意、お手持ちのオーディオおよびビデオ機器との接続のしかたや、サラウンド設定などの準備のしかたを説明しています。
まずはじめに安全上のご注意をよくお読みください。またお手持ちのオーディオやビデオ機器によっては、接続がとても複雑になることがありますので、取扱説明書をよくお読みのうえ、接続してください。

操作編

本機で使用できる各種機能の操作方法を説明しています。

リモコン操作編

他の機種をリモコンで操作するための方法を説明しています。各種の設定、登録を済ませておくと、本機とお手持ちのAV機器（テレビやビデオ、CDプレーヤー等）が、本機に付属のリモコンだけで操作できるようになります。

その他

「故障かな？と思ったら」、「定格」などを示してあります。

お手入れのしかた

前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。

接点復活剤について

接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。特にオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

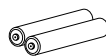
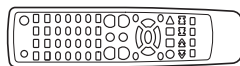
ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。近くにいる人や、隣り近所への配慮を十分いたしましょう。特に密集した場所でご使用になる場合は、音量を控え目にするなどして、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

リモコン（1個）

リモコン用単4乾電池(2本)

本機の特長

多彩なホームシアター機能
本機には、ご家庭で映像ソフトやオーディオソースを十分に楽しんでいただくために多彩なリッスンモードを用意しています。お手持ちの機器や、再生する映像ソフトに合わせてモードを選び、お楽しみください。

➔26

Dolby Digital および Dolby Digital EX
Dolby Digitalリッスンモードは Dolby Digitalフォーマット（5.1channel）のサウンドソースを楽しむことができます。このフォーマットでは、最大5.1チャンネルの独立したデジタル信号が入力されるので、従来のドルビーデジタルサウンドソースに比べて、圧倒的に高音質で迫力ある臨場感を楽しむことができます。Dolby Digital Surround EXフォーマットは、バックサラウンドチャンネルを従来の左と右のサラウンドチャンネルのサウンドソース上に埋め込むことができ、再生する際は、バックサラウンドチャンネル用のスピーカーを視聴する場所の後ろに置くことにより、映画館で体験するような、音の躍動感をご家庭で楽しむことができます。THX Surround EXおよびDolby Digital EXリッスンモードは両方ともDolby Digital Surround EXファーマットのサウンドソースを楽しむためのリッスンモードですが、好みにより使い分けることができます。

Dolby PRO LOGIC II
DOLBY PRO LOGIC II は、従来のPRO LOGICとの互換性を持ちながら、より高いサラウンド効果を生み出します。通常のステレオ録音やドルビーサラウンド録音のソフトでも、「5.1ch」のように聞こえます。PRO LOGIC II は空間全体に影響を及ぼすような、前後に広がりのあるサウンド空間をつくり出すのが特長です。PRO LOGIC II は DOLBY SURROUND マークのあるビデオソフトでは感動的なサラウンドサウンドを生み出し、音楽CDでは3次元的なサウンド空間をつくり出します。お好きな音楽で本格的なステレオサラウンドサウンドをお楽しみください。

DTS (Digital Theater System) および DTS-ES
DTSは新しいサラウンド方式で、ドルビーデジタルを上回るデータ量を持ち、より高音質のサラウンド再生ができます。 dts マークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなどを再生することができます。信号のチャンネル数は、ドルビーデジタルと同じ5.1チャンネルですがデジタル録音時の音声圧縮率を低くしたフォーマットであるため、音に厚みのある高S/N比の再生が可能になっています。また、ダイナミックレンジが広くセパレーションに優れるなど緻密で雄大なサウンドが特徴です。
DTS-ES (Extended Surround) は従来の5.1chのサラウンドを発展させ、バックサラウンドチャンネルが加わった6.1chサラウンド方式です。DTS-ESフォーマットはDVD, CD または LD等のメディアにあらかじめ記録され、完全に独立したバックサラウンドチャンネルを持つDTS-ES Discrete 6.1 とマトリクス技術を駆使し左右のサラウンドチャンネルに埋め込まれたバックサラウンドチャンネルを再生するDTS-ES Matrix 6.1 の2つのモードがあり、どちらも従来の5.1chフォーマットとの互換性を完全に持ちます。加えられたバックサラウンドチャンネルによる6.1chサラウンド再生は　後方からの音像定位感が増し、より自然な臨場感、音響効果をもたらします。
NEO:6はDTS社が開発した新しい技術で、高精度のマトリクス処理技術により2チャンネル信号から臨場感あふれる高品位な 6チャンネルサラウンドを楽しむことが可能です。NEO:6には映画を楽しむための "CINEMA" モードと音楽を楽しむための "MUSIC" モードの2つのモードがあります。
重要：
DTSディスクをCD、LDまたはDVDプレーヤで再生するとアナログ出力チャンネルにノイズが乗ることがありまので、デジタル出力を本機に接続することを推奨します。

SRS TruSurround
Dolby Digital, DTS等のマルチチャンネルサラウンドを、前方に配置した2つのスピーカーのみで再現する、ドルビーラボラトリーズ公認のバーチャルサラウンドシステムです。広い聴取可能位置で、連続した自然で音に包まれるような音場を創生します。

AAC
AAC（Advanced Audio Coding）は高音質と高圧縮率を多チャンネルでも両立できる特長を持ち、5.1チャンネルなどのマルチチャンネル信号を送信するのに適したマルチチャンネル音声フォーマットです。現在BSデジタル放送に採用されていますので、BSデジタル放送で配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画などを、臨場感あるサラウンド再生でお楽しみいただけます。

DSP サラウンドモード
本機のDSP（デジタルシグナルプロセッサ）では、“ARENA”、“JAZZ CLUB”、“STADIUM”、”DISCO”、“THEATER”といった様々な質の高い音場効果が得られます。

ACTIVE EQ
ACTIVE EQモードは再生音をより迫力のあるものにします。ACTIVE EQモードによりどのような条件においてもよりダイナミックで高品質の音が作り出せます。ドルビーデジタルそしてDTS再生においてACTIVE EQモードにすることにより、より印象的な音響効果を楽しむことができます。

共通赤外線リモコン
リモコンで働くほとんどのオーディオ、ビデオ機器を本機のリモコンで操作できます。接続した機器を簡単な手順で登録することができます。

目次

⚠ このマークのついた項目は、安全確保のために必ずお読みください。

準備編

⚠ **はじめに 2**
- 取扱説明書の使用方法 2
- 付属品 2
- 本機の特長 3

⚠ **安全上のご注意 5**

各部のなまえと働き 11
- メインユニット 11
- リモコン 12

接続のしかた 13
- 機器の接続 14
- スピーカーの接続（HTB-S500システムとして購入された方） ... 15
- スピーカーの接続（KAF-S500として購入された方） 16
- スピーカーターミナルの接続 17
- 本体全面のFRONT（フロント） AUX端子への接続 18
- リモコンの準備 18

サラウンド再生の準備をする 19
- スピーカーの設定をする 19

操作編

再生のしかた 23
- 再生をする前に 23
- 普通の再生 23
- 音の調節のしかた 24

録音のしかた 25
- 録音のしかた（アナログ音声） 25

臨場感を楽しむ 26
- サラウンドモードの種類 26
- サラウンド再生 28
- SRS TruSurround（トゥルーサラウンド）再生 29

便利な機能 30
- 各チャンネルの音量を調整する 30
- 主音声/副音声の切り換え（AAC信号のみ） 30
- ミッドナイトモード（ドルビーデジタルモードのみ） 30
- ディスプレイの明るさを調整する 31
- おやすみタイマー（SLEEP（スリープ）） 31
- 96KHzリニアPCMの再生 31

リモコン操作編

他の機器のリモコンの基本操作 32
- お手持ちの機器のセットアップコードを登録する 32
- 他の機器を操作する 33
- セットアップコード表 33
- 他の機器をリモコンで操作する 35

その他

故障かな?と思ったら 37

⚠ **定格 38**

保証とアフターサービス（よくお読みください） 39

ケンウッドサービス網 40

安全上のご注意

⚠ このページは、感電や火災からあなたを守るため、ご使用の前に必ずお読みください。

製品を安全にご使用いただくため、「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容を良く理解してから、本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用・故障・その他の不具合およびこの製品の使用によって受けられた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

この「安全上のご注意」には、当社のオーディオ機器全般についての内容を記載しています。
（説明項目の中には、操作説明部と重複する内容もあります）

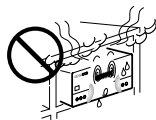
警告

交流100ボルト以外の電圧で使用しない

この機器は、交流100ボルト専用です。指定以外の電源電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

放熱に注意

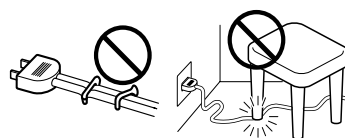
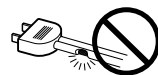
設置の際は、壁から10cm以上離してください。
機器のカバー等にある穴は、放熱のための通風孔ですので、ふさがないようにご注意ください。

- あおむけや横倒し、逆さまにして使用しない。
- 風通しの悪い狭い所に押し込まない。
- 布を掛けたり、じゅうたん、布団の上において使用しない。

通風孔がふさがると、内部に熱がこもり、火災の原因となります。

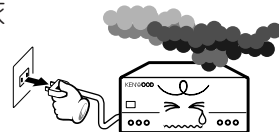
風呂、シャワー室では使用しない

風呂、シャワー室など湿度の高いところや、水はねのある場所では使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

電源コードの取扱い

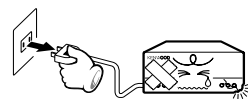
電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したり、ステープルや釘などで固定しないでください。また、電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。コードを敷物などで覆ってしまうと、気づかずに重いものをのせてしまうことがあります。
コードが傷つき、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷ついたら（芯線の露出、断線など）修理をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

異常が起きた場合は

煙が出たり、変な臭いや音がする場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙や、異臭、異音が消えたのを確かめてから修理をご依頼ください。

警告

電源プラグは清潔に

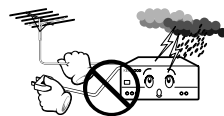
電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

落下した機器は使わない

機器を落としたり、カバーやケースがこわれた場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

ケースを絶対に開けないでください

機器の裏ぶた、カバーを開けたり、改造をしないでください。
内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。
点検、修理は販売店または当社サービス窓口にご依頼ください。

雷が鳴り始めたら

アンテナ線や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

機器の内部に水や異物を入れない

機器の上に花びんやコップなど水の入った容器を置かないでください。
こぼれて中に入ると、火災・感電の原因となります。

機器の通風孔、開口部から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。

内部に水や異物などが入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、点検、修理をご依頼ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

電池は放置しない

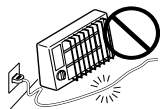
電池は、幼児の手の届かないところへ置いてください。ボタン電池など小型の電池は特にご注意下さい。
電池をあやまって飲み込むおそれがあります。
万一、お子さまが飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

乾電池は充電しない

乾電池は充電しないでください。
電池の破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となります。

注意

電源コードを熱器具に近付けない

電源コードを熱器具(ストーブ、アイロンなど)に近付けないでください。
コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

不安定な場所には置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

湿気やほこりのある場所に置かない

油煙や湯気の当たる調理台、加湿器のそば、湿気やほこりの多い場所には置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

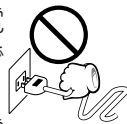
温度の高い場所には置かない

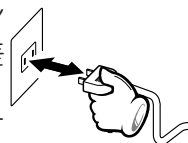
窓を閉めきった自動車の中や、直射日光があたる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。
本体や部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。

電源プラグの抜き差しは

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

電源プラグは、根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントに接続しないでください。
発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。

注意

長期間使用しないときは

旅行などで長期間、ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災の原因となることがあります。

指定以外のコードを使わない

関連機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。
指定以外のコードを使用したりコードを延長すると発熱し、やけどの原因となることがあります。

機器に乗らない

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。
倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

指をはさまない

お子様がカセットテープ、ディスク挿入口に手を入れないようご注意ください。
指がはさまれて、けがの原因となることがあります。

指定機器以外の物を乗せない

この機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きな物を置かないでください。
バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

レーザー光源はのぞかない

レーザー光源をのぞき込まないでください。
レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

アンテナ工事

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。
アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

ひび割れディスクは使わない

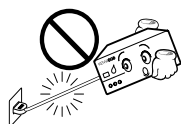
ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。
ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

注意

音量に気をつけて

はじめに音量(ボリューム)を最小にしてください。
突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。
ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにしてください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

移動させる際は

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。
コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

電池の取扱い

電池は誤った使い方をすると、破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を破損する原因となることがあります。
次のことを、必ず守ってください。

- 極性表示(プラス"+"とマイナス"ー"の向き)に注意し、表示通りに入れてください。

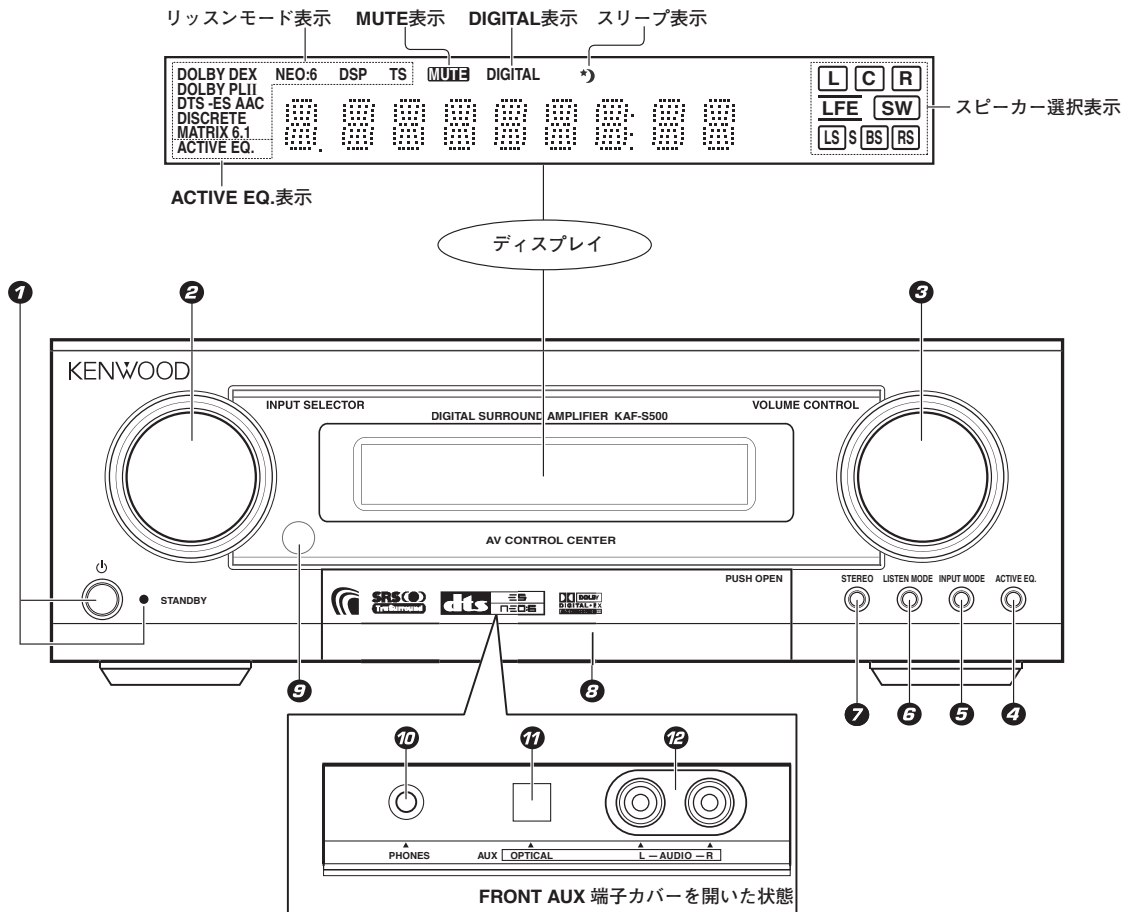
- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。

お手入れの際は

お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電の原因となることがあります。

3年に1度程度を目安に、機器内部の点検、清掃をお勧めします。販売店、または最寄りのケンウッドサービス窓口に費用を含めご相談ください。
内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。

各部のなまえと働き

メインユニット

❶ ⏻ (POWER) キー →19
電源のオン/スタンバイを切り換えます。
STANDBY表示
電源がスタンバイ状態になると点灯します。

❷ **INPUT SELECTORつまみ (DVD/CD, VIDEO 1, VIDEO 2, FRONT AUX)** →23
入力ソースを選択します。

❸ **VOLUME CONTROLつまみ** →23

❹ **ACTIVE EQ.キー** →24
ACTIVE EQ.の設定をするときに使います。

❺ **INPUT MODEキー** →13
フルオート入力、デジタル入力、アナログ入力を切り換えます。

❻ **LISTEN MODEキー** →28
リッスンモードを選ぶときに使います。

❼ **STEREOキー** →28
リッスンモードをステレオに切り換えるときに使います。

❽ **FRONT AUX端子カバー** →18 →24
FRONT AUX端子を使う場合、カバーの右端を音がするまで押し、カバーが少し開いたら指で引いて開けてください。操作後は元の状態に戻します。

❾ **リモコン受光部** →18

❿ **PHONES端子** →24
ヘッドホンで聴くときに使います。

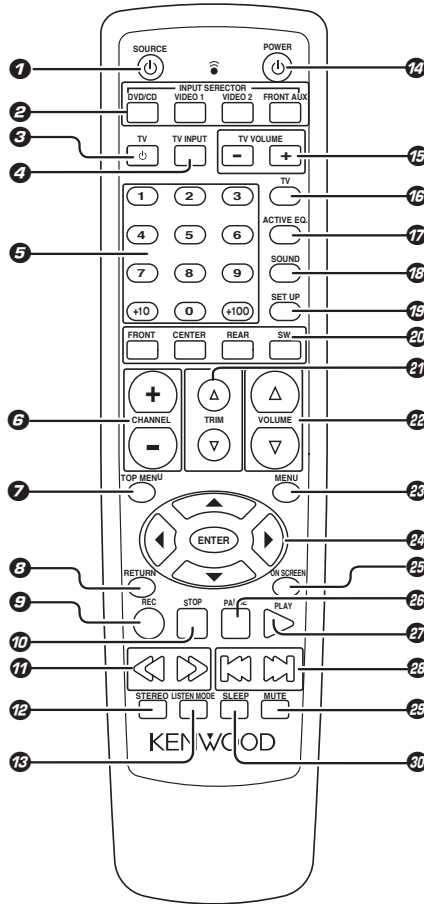
⓫ **FRONT AUXデジタル入力端子(音声)**
デジタル音声信号出力のある機器を接続します。

⓬ **FRONT AUX (L-AUDIO-R)端子** →18

スタンバイ状態について

本機のスタンバイインジケーターが点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電を行っています。これをスタンバイ状態といいます。このとき、リモコンで本機をオンできます。

リモコン

メーカーセットアップコードを正しく設定しておくと、ケンウッドの機器だけでなく、他社製の機器もリモコンで操作できます。 →32

本体とリモコンで機能が同じでも、キーまたはつまみの名称が異なるものがあります。本取扱説明書の説明文中では、本体とリモコンで名称が異なる場合は、リモコンキーの名称をかっこ内に表記します。

❶ **SOURCE ⏻ キー** →32 →33
他の機器の電源のオン/オフを切り換えます。

❷ **INPUT SELECTORキー** →23
(DVD/CD, VIDEO 1, VIDEO 2, FRONT AUX)
入力ソースを選択します。

❸ **TV ⏻ キー** →35
テレビの電源のオン/オフを切換えます。

❹ **TV INPUTキー** →35
テレビの入力切換のときに使います。

❺ **数字キー** →32
他の装置に添付されているリモコンの数字キーと同じ機能です。

❻ **CHANNEL +/- キー** →35 →36
チャンネルを選ぶときに使います。

❼ **TOP MENUキー** →36
DVDの操作に使います。

❽ **RETURNキー** →36
DVDの操作に使います。

❾ **REC(●)キー** →35
他の機器の操作に使います。

❿ **STOP(■)キー** →35 →36
停止キーとして使います。

⓫ **◀◀/ ▶▶キー** →35 →36
接続した CDプレーヤ、MDプレーヤ、TAPEを操作するとき、サーチキーとして使います。

⓬ **STEREOキー** →28
リッスンモードをステレオに切り換えるときに使います。

⓭ **LISTEN MODEキー** →28
リッスンモードを選ぶときに使います。

⓮ **POWER ⏻ キー** →19
アンプの電源のオン/オフを切り換えます。

⓯ **TV VOLUME +/- キー** →35
テレビの音量を調節するときに使います。

⓰ **TVキー** →35
テレビの操作をするときに使います。

⓱ **ACTIVE EQ.キー** →24
ACTIVE EQの設定をするときに使います。

⓲ **SOUNDキー** →24 →29 →30
音質や音場を調節したいときに使います。

⓳ **SET UPキー** →19
スピーカーの設定などをするときに使います。

⓴ **スピーカー切り換えキー** →30
各スピーカーの音量を調整するときに使います。

㉑ **TRIM △/▽キー** →19
SETUPやSOUND等の機能を調節するときに使います。
他の機器の操作に使います。

㉒ **VOLUME △/▽キー** →23
音量を調節するときに使います。

㉓ **MENUキー** →36
他の機器の操作に使います。

㉔ **▲/ ▼/ ◀/ ▶キー** →36
他の機器の操作に使います。
ENTERキー →32 →36
他の機器の操作に使います。

㉕ **ON SCREENキー** →32
他の機器の操作に使います。

㉖ **PAUSEキー(❙❙)** →35 →36
接続したCDプレーヤ、MDプレーヤ、TAPEを操作するときは、一時停止キーとして使います。

㉗ **PLAYキー(▶)** →35 →36
接続したCDプレーヤ、MDプレーヤ、TAPEを操作するときは、再生キーとして使います。

㉘ **|◀◀/ ▶▶|キー** →36
他の機器の操作に使います。

㉙ **MUTEキー** →24
音を一時的に消すときに使います。

㉚ **SLEEPキー** →31
おやすみタイマーを設定するときに使います。

接続のしかた

⚠ 注意 接続をするときは、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。機器の接続は14ページ～18ページをご覧ください。

関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

マイコンの誤動作について

正しく接続したのに操作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、「故障かな?と思ったら」を参照してマイコンをリセットしてください。 →37

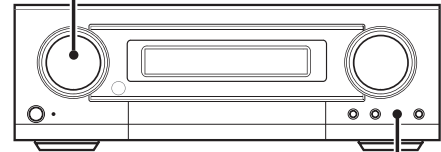
ご注意

1. 機器間の接続を行なうときは、必ず各機器の電源を切ってから行なってください。
2. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音が出なくなったり、雑音が発生することがあります。
3. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。
4. 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラが発生することがありますので、設置にご注意ください。

アナログ接続について

オーディオ機器はオーディオピンコードで接続します。その場合、音声はアナログステレオ信号で入出力されます。オーディオピンコードは赤い端子（R側に接続）と白い端子（L側に接続）のペアになっています。これらのコードはお手持ちの機器に付属されています。もしくはお近くの販売店で購入してください。

インプットモードの設定

DVD/CD、VIDEO 2、FRONT AUXの入力は、それぞれデジタル音声入力とアナログ音声入力の端子を持っています。
工場出荷時におけるDVD/CD、VIDEO 2およびFRONT AUXのオーディオ信号インプットモードはフルオートモードに設定してあります。
接続を終了し、本機の電源を入れた後に以下の操作でインプットモードを選んでください。

❶ **INPUT SELECTORつまみでDVD/CD、VIDEO 2またはFRONT AUXを選ぶ。**

❷ **INPUT MODEキーを押す。**

押すたびに切り換わります。

DVD/CD、VIDEO 2またはFRONT AUXのとき

① **FULL AUTO** （デジタル入力、アナログ入力）
② **D. MANUAL** （デジタル入力）
③ **ANALOG** （アナログ入力）

DTS再生中のとき

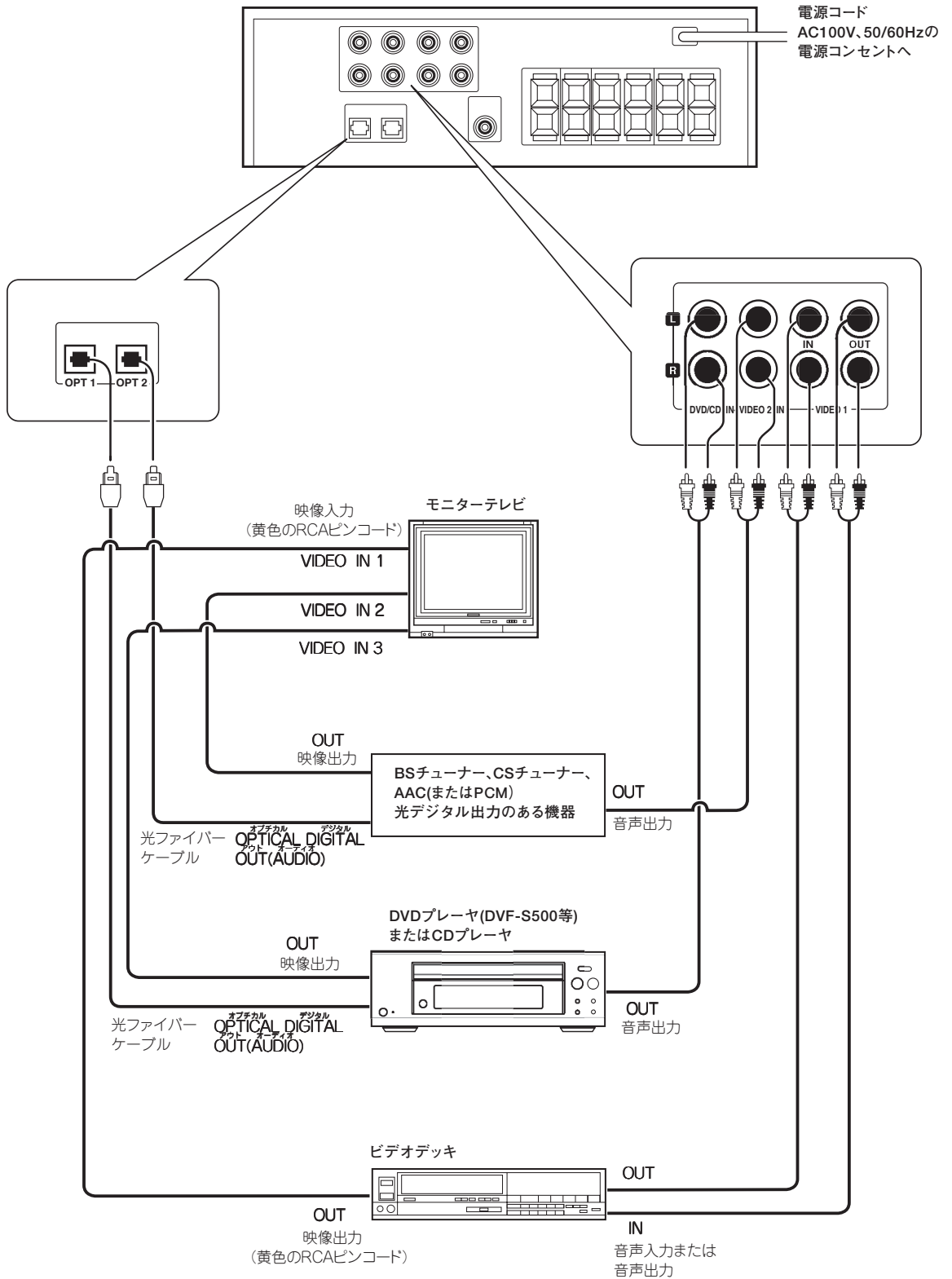
① **FULL AUTO** （デジタル入力、アナログ入力）
② **D. MANUAL** （デジタル入力）

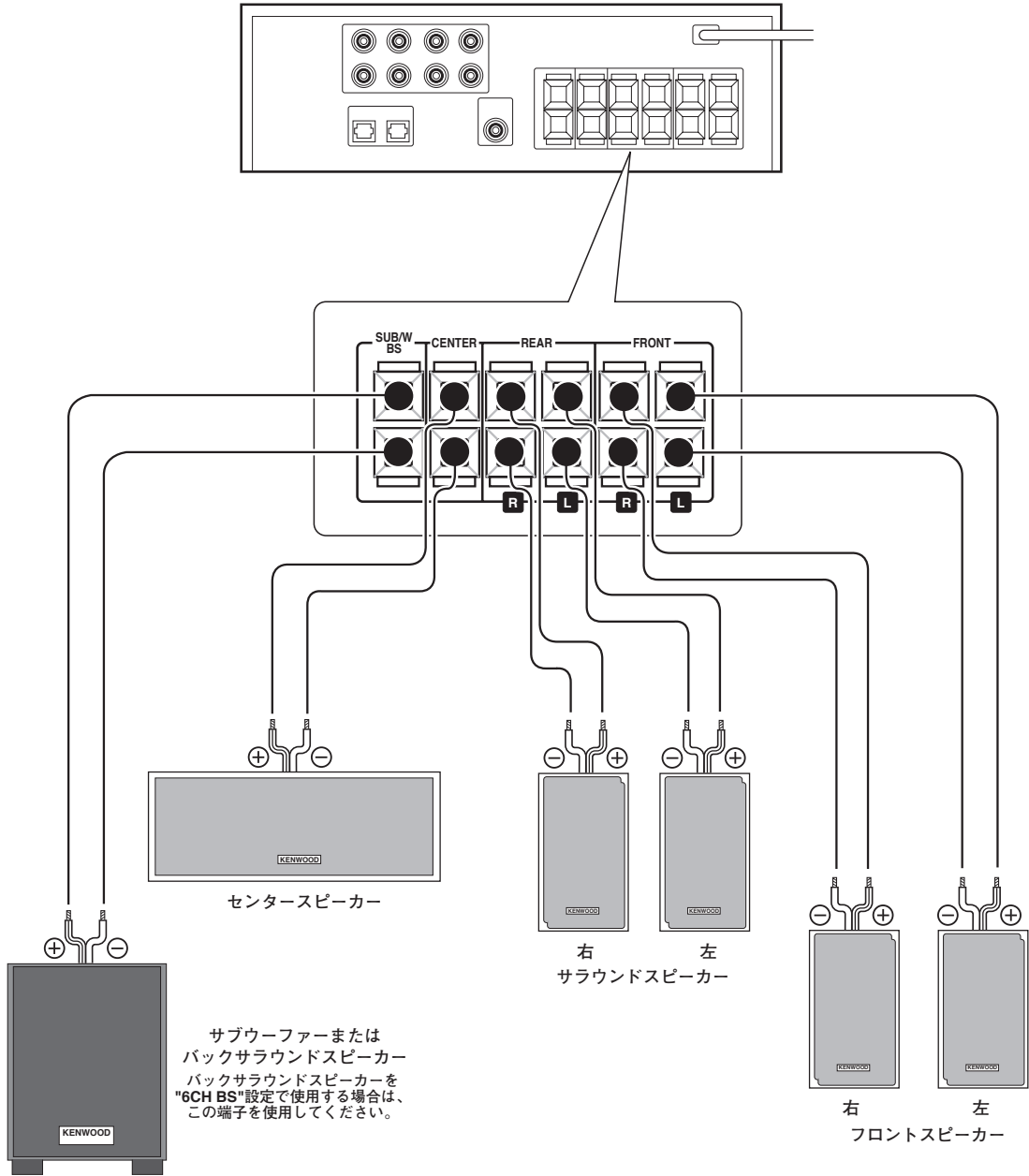
デジタル入力：
DVD、CD、LDなどに記録されているデジタル音声信号を再生したいときに選びます。

アナログ入力：
カセットテープ、ビデオテープ、レコードなどに記録されているアナログ音声信号を再生したいときに選びます。

オートディテクト：
FULL AUTOモード（ディスプレイに**FULL AUTO**と表示）ではデジタル入力信号を自動的に検出し、再生します。また、デジタルソース再生時には入力信号の種類(ドルビーデジタル、PCM、DTS、AACなど)とスピーカーの設定に合わせてリッスンモードを自動的に選びます。**FULL AUTO**モード時にデジタル信号が検出された場合または、**“D. MANUAL”**モード時には**“DIGITAL”**表示が点灯します。アナログ信号が入力された場合は**“DIGITAL”**表示は消灯します。
現在選んでいるリッスンモードを継続したい場合は、**INPUT MODE**キーで **“D. MANUAL”**（マニュアルサウンド）を選んでください。
”D. MANUAL"に設定した場合、リッスンモードとドルビーデジタルソースの組み合わせによっては、設定したリッスンモードが自動的に変更されることがあります。
INPUT MODEキーをすばやく押すと、音声が聞こえなくなることがあります。その場合再度**INPUT MODEキー**を押し直してください。

機器の接続

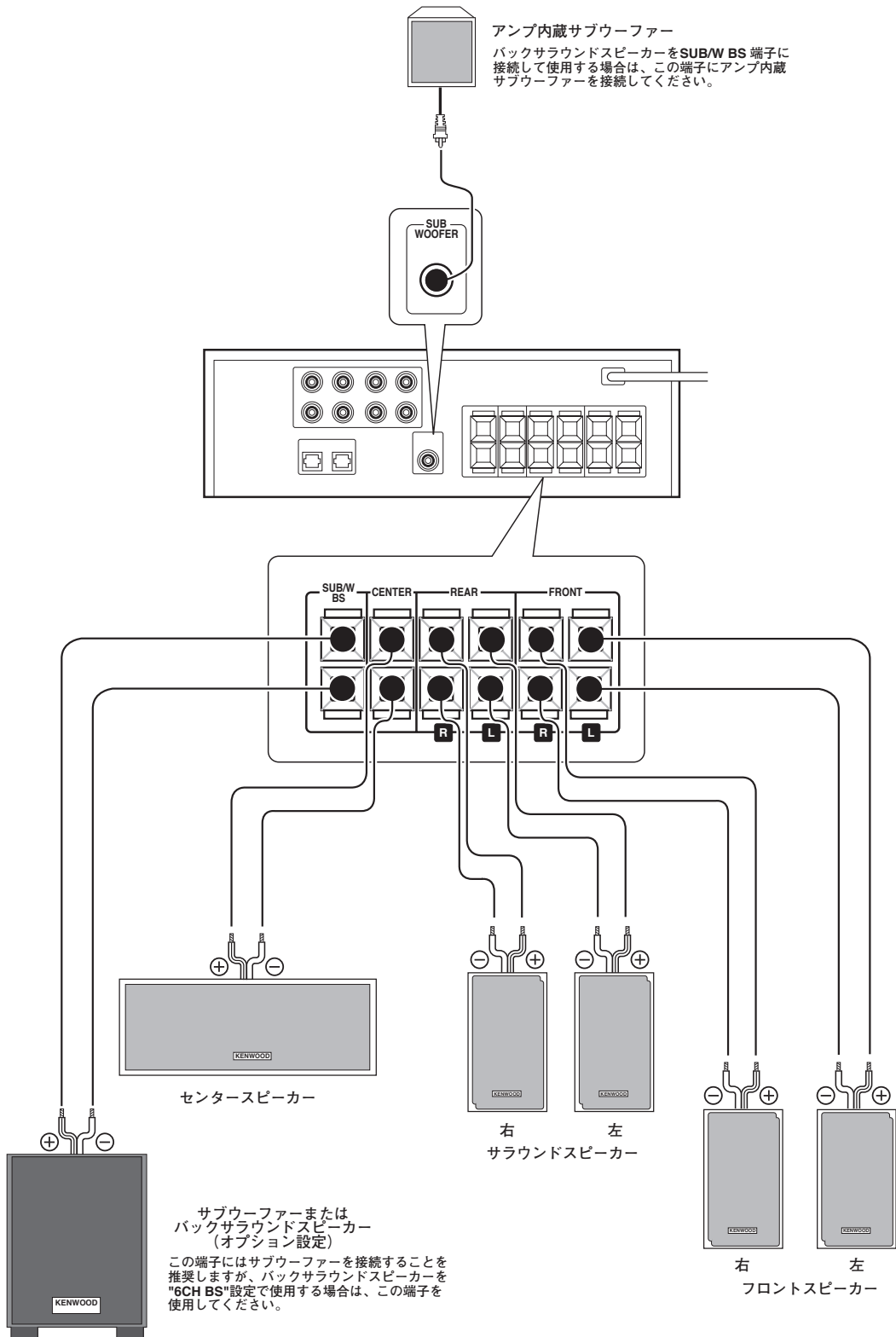
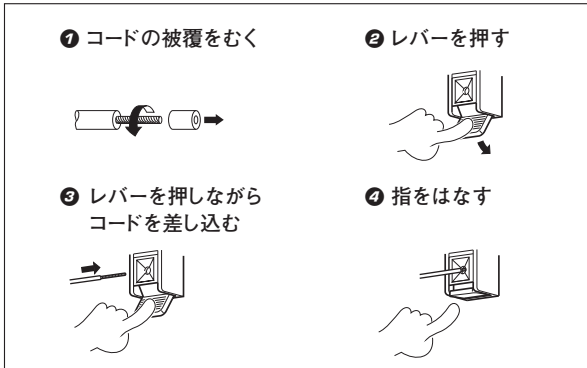
電源コード
AC100V、50/60Hzの
電源コンセントへ
OPT 1
OPT 2
L
R
IN
OUT
DVD/CD IN
VIDEO 2 IN
VIDEO 1
映像入力
（黄色のRCAピンコード）
モニターテレビ
VIDEO IN 1
VIDEO IN 2
VIDEO IN 3
OUT
映像出力
BSチューナー、CSチューナー、
AAC(またはPCM)
光デジタル出力のある機器
OUT
音声出力
光ファイバー
ケーブル
OPTICAL DIGITAL
OUT(AUDIO)
DVDプレーヤ(DVF-S500等)
またはCDプレーヤ
OUT
映像出力
OUT
音声出力
光ファイバー
ケーブル
OPTICAL DIGITAL
OUT(AUDIO)
ビデオデッキ
OUT
OUT
映像出力
（黄色のRCAピンコード）
IN
音声入力または
音声出力

スピーカーの接続（HTB-S500 システムとして購入された方）

接続の際は、本機の背面のスピーカー端子と、各スピーカーの背面の端子の同じ色をスピーカーに付属の接続コードで接続してください。
接続コードについているカラーチューブの色も、接続する端子の色と同じ色を使用してください。
接続コードに白線表示がある線を ⊕ 側に接続してください。

スピーカー付属の目隠し用木目シールについて

フロントスピーカー、サラウンドスピーカーには、スタンド等への固定用ネジ穴が付いています。ネジ穴を使用しないときは、目隠しシールを貼ってください。

スピーカー付属のクッションについて

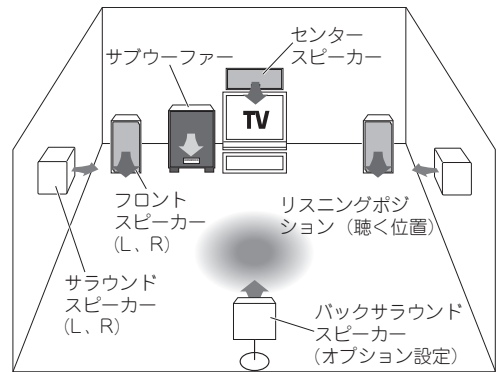
付属のクッション4個を各スピーカー（サブウーファーを除く）の底面に貼り付けてください。滑り防止と、振動を設置面に伝えにくくする効果があります。

スピーカーの接続（KAF-S500 として購入された方）

スピーカーターミナルの接続

- スピーカーコードの＋と－は絶対にショートさせないでください。
- 左右を逆にしたり、極性を間違えて接続しますと、楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音になります。正しく接続してください。

スピーカーインピーダンス

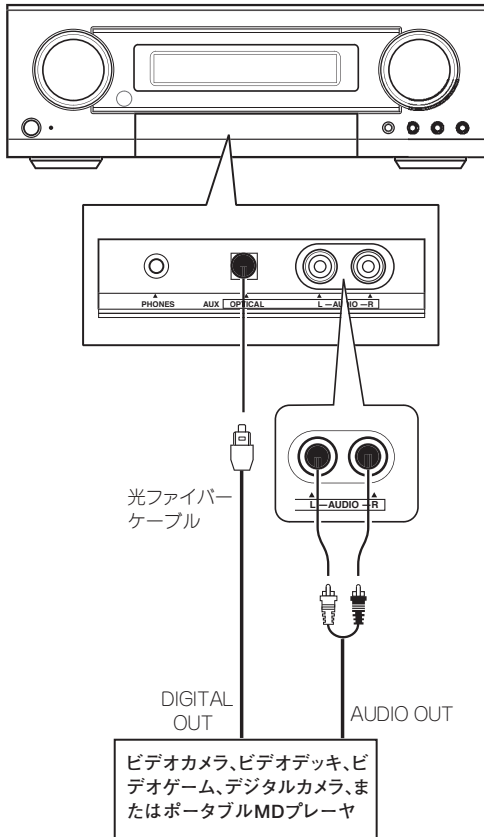
フロントスピーカー .... 6～16 Ω
センタースピーカー .... 6～16 Ω
サラウンドスピーカー .... 6～16 Ω
サラウンドバックスピーカー .... 6～16 Ω

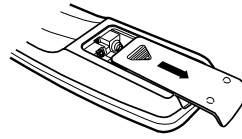
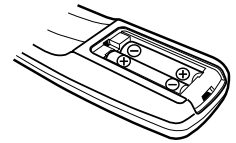
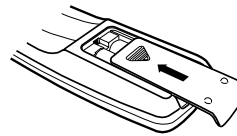
サラウンドスピーカーの設置のしかた

センター
スピーカー
サブウーファー
TV
フロント
スピーカー
（L、R）
リスニングポジション（聴く位置）
サラウンド
スピーカー
（L、R）
バックサラウンド
スピーカー
（オプション設定）

フロントスピーカー：前面左右に設置します。モードにかかわらず必ず使用します。
センタースピーカー：前面中央に設置します。音像の定位を良くし、音の移動感を再現します。サラウンド再生には必ず必要です。
サラウンドスピーカー：座る位置の真横または少し後ろで、聴く人の耳の位置より1メートルほど上方に、水平な状態で設置してください。音の移動感や臨場感などを再現します。サラウンド再生には必ず必要です。
サブウーファー：重低音を迫力ある音で再現します。
バックサラウンドスピーカー（オプション設定）：バックサラウンドスピーカーは視聴位置の後ろでサイドサラウンドスピーカーと同じ高さに設置してください。

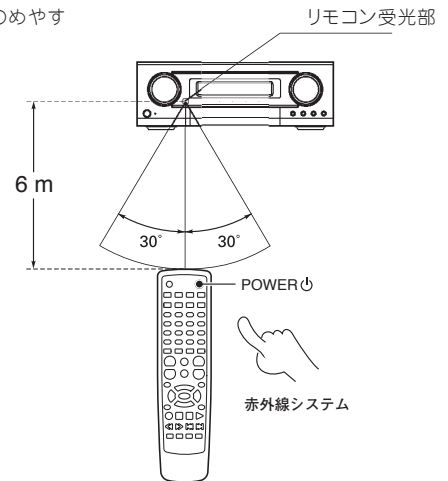
- すべてのスピーカーを設置すると理想的なサラウンド再生ができますが、センタースピーカーまたはサブウーファーをお持ちでない場合は、それらの信号を各スピーカーに割り振って、お手持ちのスピーカーで最適な再生を行います。 ➡19

本体前面のFRONT AUX端子への接続

ポータブルMDプレーヤなど通常は本機に接続してご使用にならない機器は、本体の前面にあるFRONT AUX端子に接続します。

● FRONT AUX端子に接続されたソースを選択する場合は、INPUT SERECTORでFRONT AUXを選んでください。
→ 23

リモコンの準備

電池を入れる

● 単4乾電池2本を極性マークにしたがって入れる。

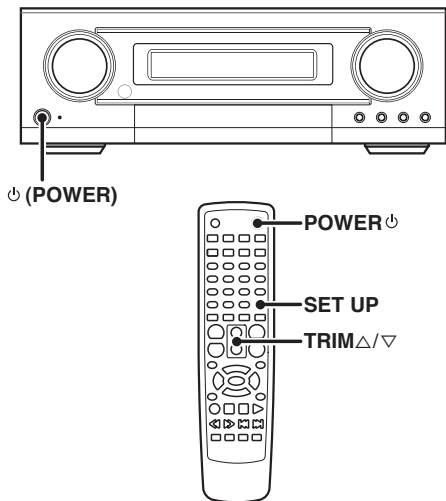
操作のしかた

本機がスタンバイ状態のときに、リモコンのPOWER ⏻ キーを押すと、電源がオンになります。電源がオンになったら、操作したいキーを押します。

● リモコンの各操作キーを押してから次のキーを押すときは、約1秒以上の間隔をあけて確実に押してください。

ご注意

1. 付属の乾電池は、動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
2. 操作できる距離が短くなったら、すべて新しい電池と交換してください。リモコンは電池を取り換えている間でも、セットアップコードのメモリーを保持するように設計されています。
3. リモコン受光部に直射日光や高周波点灯（インバーター方式など）の蛍光灯の光が当たると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。

スピーカーの設定をする

工場出荷時は初期設定状態になっていますので、接続したスピーカー（サブウーファー、フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック）の各種設定をします。

HTB-S500システムを購入された方は、本機が付属のスピーカーシステムKSW-S500に合わせた初期設定となっているため、以下の手順 2 から 4 はスキップして 5 へ進んでください。
初期設定

6chアンプ	:6ch SW	サブウーファー	:SW ON
フロント	:FRONT NML	センター	:CNTR NML
サラウンド	:SURR NML	バックサラウンド	:BS NML

サブウーファーリミックス：REMIX ON

1 ⏻ (POWER)キーを押して本機の電源をオンにする。

2 SET UPモードにするためSET UPキーを押す。

SET UPキーを押してからTRIM△/▽キーを押すと次の順で切り換わります。

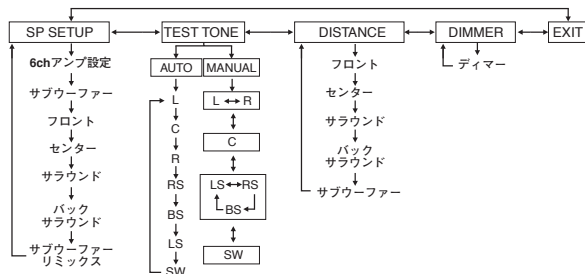
① SP SETUP
② TEST TONE
③ DISTANCE
④ DIMMER
⑤ EXIT

3 6chアンプの設定をする。

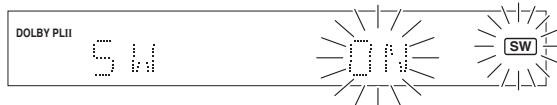
SP SETUPを選択してSET UPキーをもう一度押すと、バックサラウンドまたはサブウーファーのための6ch アンプ設定が表示されます。

① **6ch SW** ：サブウーファーをSUB/W BSスピーカー端子に接続した場合選択する。
② **6ch BS** ：バックサラウンドスピーカーをSUB/W BSスピーカー端子に接続した場合選択する。サブウーファー用の出力は、SUB WOOFERのPRE OUT端子から取り出せます。
③ **6ch OFF** ：SUB/W BSスピーカー端子にスピーカーを接続していない場合選択する。

TRIM△/▽**キー**を使ってスピーカーを選択してください。
SET UPキーを押して次のセットアップに進んでください。

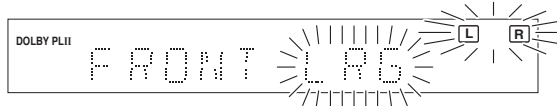
SETUPフローは以下のようになります。

4 接続しているスピーカーを選ぶ。

THXが承認したスピーカーを接続しているときは、NMLに設定する。

❶ SET UPキーをもう一度押すと、サブウーファー設定表示"SW ON"があらわれます。

❷ TRIM△/▽キーを使ってサブウーファーの設定をする。

① **SW ON** ：サブウーファーの設定をONにするとき。
② **SW OFF** ：サブウーファーの設定をOFFにするとき。

- "SW OFF"を選び、SET UPキーを押して確定した場合、フロントスピーカーは自動的に"FRONT LRG"(ラージ)に設定され、手順❻に進みます。

❸ SET UPキーを押して確定させる。
- フロントスピーカーの設定表示は、"FRONT"になります。

❹ TRIM△/▽キーを使ってフロントスピーカーの設定をする。

① **FRONT LRG**（ラージ） ：大きめのフロントスピーカーのとき。
② **FRONT NML**（ノーマル） ：普通のフロントスピーカーのとき。

- サブウーファーの設定をONにして、フロントスピーカーの設定を**"FRONT LRG"**(ラージ)にしたときは、ステレオソースを再生したときに、リッスンモードの設定によっては、低音はフロントスピーカーで再生し、サブウーファーから音が出ない場合があります。このような場合は、手順⓬のサブウーファーリミックスの設定をONにすると、サブウーファーにも低音の信号が送られます。

❺ SET UPキーを押して確定させる。
- センタースピーカーの設定表示は、"CNTR"になります。

次頁に続く

❻ TRIM(トリム)△/▽キーを使ってセンタースピーカーの設定をする。

フロントスピーカーを"LRG"に設定したとき

① **CNTR NML**（ノーマル）：普通のセンタースピーカーのとき。
② **CNTR LRG**（ラージ）：大きめのセンタースピーカーのとき。
③ **CNTR OFF**：センタースピーカーの設定をOFFにするとき。

フロントスピーカーを"NML"に設定したとき

① **CNTR ON**：センタースピーカーの設定をONにするとき。
② **CNTR OFF**：センタースピーカーの設定をOFFにするとき。

❼ SET UP(セットアップ)キーをもう一度押して確定させる。

- サラウンドスピーカーの設定表示は、"SURR"になります。

❽ TRIM(トリム)△/▽キーを使ってサラウンドスピーカーの設定をする。

センタースピーカーを"LRG"に設定したとき

① **SURR NML**（ノーマル）：普通のサラウンドスピーカーのとき。
② **SURR LRG**（ラージ）：大きめのサラウンドスピーカーのとき。
③ **SURR OFF**：サラウンドスピーカーの設定をOFFにするとき。

センタースピーカーを"LRG"以外に設定したとき

① **SURR ON**：サラウンドスピーカーの設定をONにするとき。
② **SURR OFF**：サラウンドスピーカーの設定をOFFにするとき。

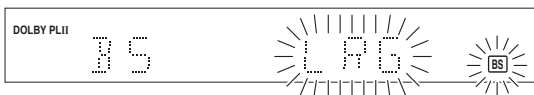
- **"SURR OFF"**を選び、手順❾でSET UP(セットアップ)キーを押して確定した場合、手順⓬に進みます。ただし、サブウーファーの設定がOFFのときは、SET UP(セットアップ)キーを押してスピーカーのセットアップを終了し、手順**5**の各スピーカーの音量レベルを調整します。

❾ SET UP(セットアップ)キーをもう一度押して確定させる。

- バックサラウンドスピーカーの設定表示は、"BS"になります。

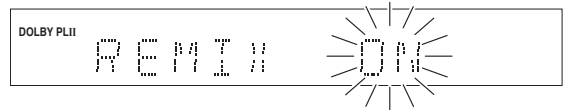
❿ TRIM(トリム)△/▽キーを使ってバックサラウンドスピーカーの設定をする。

サラウンドスピーカーを"LRG"に設定したとき

① **BS NML**（ノーマル）：普通のバックサラウンドスピーカーのとき。
② **BS LRG**（ラージ）：大きめのバックサラウンドスピーカーのとき。
③ **BS OFF**：バックサラウンドスピーカーの設定をOFFにするとき。

サラウンドスピーカーを"LRG"以外に設定したとき

① **BS NML**：バックサラウンドスピーカーの設定をONにするとき。
② **BS OFF**：バックサラウンドスピーカーの設定をOFFにするとき。

⓫ SET UP(セットアップ)キーをもう一度押して確定させる。

- サブウーファーリミックスの設定表示は"REMIX"になります。
- サブウーファーの設定がOFFのときは,サブウーファーリミックスは設定できません。

⓬ TRIM(トリム)△/▽キーを使ってサブウーファーリミックスの設定をする。

① **REMIX(リミックス) ON**：サブウーファーリミックスの設定をONにするとき。
② **REMIX(リミックス) OFF**：サブウーファーリミックスの設定をOFFにするとき。

- REMIX(リミックス)をONにすると、スピーカーの設定に応じて、サブウーファーに他のチャンネルの低音を付加したり、サブウーファーで再生する低音を他のチャンネルに付加して、低音の量感を増します。

⓭ SET UP(セットアップ)キーをもう一度押すと、2に戻ります。

- スピーカーの音量レベルを調節するモードになります。
- **5**、**6**では、選ばれたスピーカーで、調整が必要なチャンネルのみ表示されます。

5 各スピーカーの音量レベルを調節する。

実際に聴く位置で、ポータブルのSPL（音圧レベル）メーターを使い、メータの読み取り単位を“C”に設定し、腕をいっぱいに延ばした状態でノイズレベルの読みが75dBになるようにボリュームレベルを調整します。SPLメーターがない場合はボリュームレベルを0dBから調整し、各スピーカーからのレベルがほぼ同じになるようにします。

❶ SET UP（セット アップ）キーを押して“TEST TONE（テスト トーン）”が表示されるまでTRIM（トリム）△/▽キーを押す。

❷ “TEST TONE（テスト トーン）”が表示されたらSET UP（セット アップ）キーを押す。

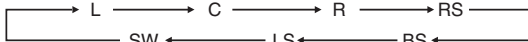
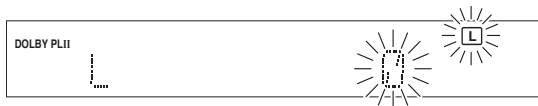
❸ TRIM（トリム）△/▽キーを使って “AUTO（オート）”、または“MANUAL（マニュアル）”を選択する。

① AUTO（オート）
② MANUAL（マニュアル）

❹ SET UP（セット アップ）キーをもう一度押すと、“TEST TONE（テスト トーン）”が始まります。

調節したいスピーカーチャンネルからテストトーンが出ているときにTRIM（トリム）△/▽キーを使って音量レベルを調節する。

“AUTO（オート）”を選択すると最初に左フロントスピーカーから約3秒間テストトーンが聞こえ、その後、以下に示される順番で各スピーカーから約3秒間ずつテストトーンが聞こえます。

テストトーンが聞こえる順番

テストトーン出力中のチャンネルが点灯します。

- 再生時に各スピーカーの音量レベルを変更すると、この項で設定した内容も変わります。
- スピーカー設定をOFFにすると、設定していたスピーカーレベルはリセットされます。

“MANUAL（マニュアル）”を選択した場合、FRONT（フロント）、CENTER（センター）、REAR（リア）または、SW（サブウーファー）キーでスピーカーチャンネルを選び、TRIM（トリム）△/▽キーを使って音量レベルを調節します。

フロントスピーカーチャンネルのレベルを調節したいときは、FRONT（フロント）キーを押します。FRONT（フロント）キーを押すたびに、L (フロントスピーカーLチャンネル)、R (フロントスピーカーRチャンネル) と切り変わります。

- センタースピーカーチャンネル、サブウーファースピーカーチャンネルのレベルを調整したいときは、それぞれ**CENTER（センター）**、**SW（サブウーファー）**キーを押します。
- サラウンドスピーカーチャンネルのレベルを調整したいときは、**REAR（リア）**キーを押します。**REAR（リア）**キーを押すたびに、LS(サラウンドスピーカーLチャンネル)、BS(バックサラウンドスピーカーチャンネル)、RS(サラウンドスピーカーRチャンネル)、と表示が切り替わります。

❹ もう一度SET UP（セット アップ）キーを押す。
- テストトーンが止まり、メインの設定画面に戻ります。

6 スピーカーまでの距離を入力する。

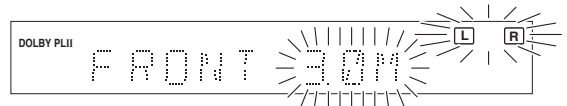
❶ リスニングポジション(聴く位置)から各スピーカーまでの距離をはかる。

メモしておきましょう。

フロント左スピーカーまで(L)	______ メートル
センタースピーカーまで(C)	______ メートル
フロント右スピーカーまで(R)	______ メートル
サラウンド右スピーカーまで(RS)	______ メートル
バックサラウンドスピーカーまで(BS)	______ メートル
サラウンド左スピーカーまで(LS)	______ メートル
サブウーファーまで(SW)	______ メートル

❷ SET UP（セット アップ）キーを押して“DISTANCE（ディスタンス）”が表示されるまでTRIM（トリム）△/▽キーを押す。“DISTANCE（ディスタンス）”が表示されたらSET UP（セット アップ）キーを押す。

❸ SET UP（セット アップ）キーを使ってスピーカーを選択し、TRIM（トリム）△/▽キーを使ってフロントスピーカーからの距離を設定する。

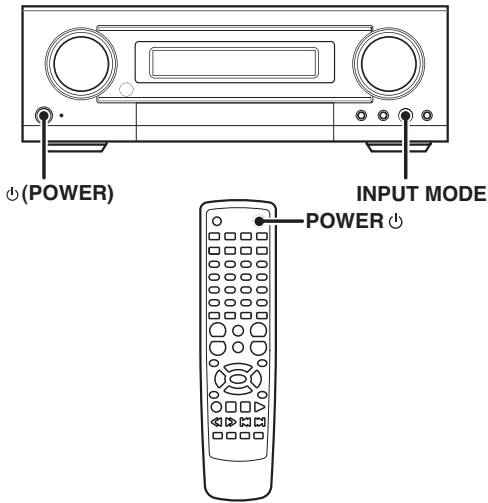
調整するスピーカーが点滅します。

- 0.3m〜9.0mまで、0.3mごとに調整できます。

❹ ❸を繰り返して各スピーカーまでの距離を入力する。

❺ SET UP（セット アップ）キーをもう一度押すとメインの設定画面に戻ります。

- 選ばれたスピーカーが表示部に表示されます。正しく選ばれているかを確認してください。

再生をする前に

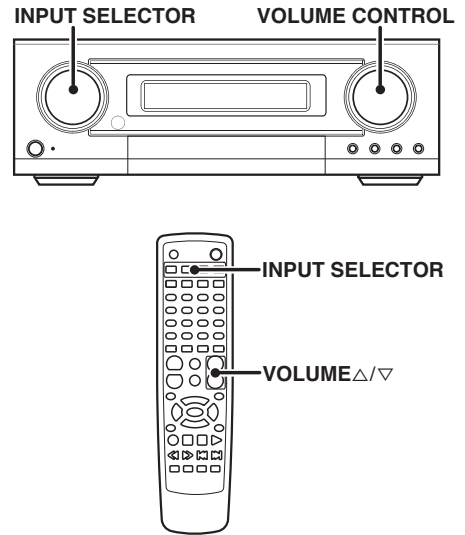
再生をする前に必要な準備をしておきましょう。

電源の入れかた

❶ 関連機器を接続し、電源をオンにする。

❷ ⏻ (POWER)キーを押して本機の電源をオンにする。

インプットモードの選択

DVD/CD、VIDEO 2またはFRONT AUXに接続した機器で再生するときは、インプットモードが接続した機器の再生する音声信号(デジタル入力またはアナログ入力)に合っていることを確認してください。 →13

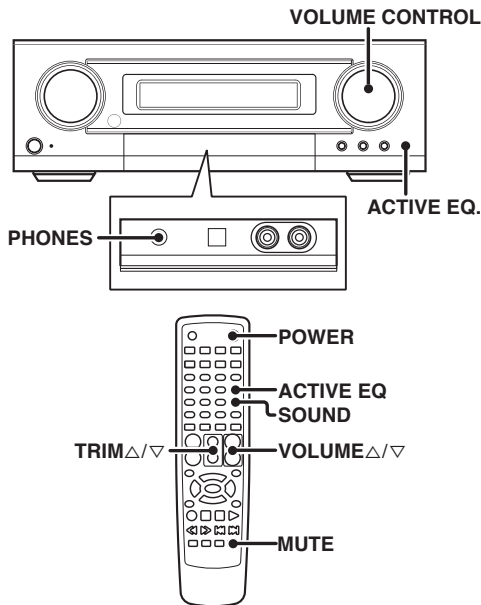
普通の再生

1 ***INPUT SERECTORつまみ(またはINPUT SERECTORキー)で聴きたいソースを選ぶ。***

それぞれのキーを使い入力ソースを選択してください。

① "DVD/CD"
② "VIDEO1"
③ "VIDEO2"
④ "FRONT AUX"

2 ***選んだソースを再生する。***

3 ***VOLUME CONTROLつまみ(またはリモコンのVOLUME △/▽キー)で音量を調節する。***

音の調節のしかた

トーンレベルを設定する(リモコンのみ)

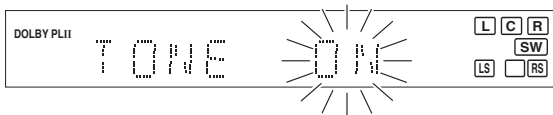
トーンレベルは、アンプがPCMステレオモードかアナログステレオモードのときに設定できます。

❶ **SOUNDキーを押して、サウンド設定モードにする。**

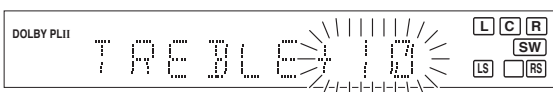
Dolby DigitalのSTEREO時
- ① **T.SURR ON**または**OFF** (SRS TruSurround)
- ② **TONE**
- ③ **NIGHT ON** または **OFF** (Midnight モード)

AACのSTEREO時
- ① **AAC AUDIO**
- ② **TONE**

- 上記は代表的な入力信号の場合の例です。入力信号の種類によって、選ぶことのできないモードがあります。

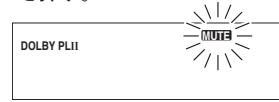
❷ **TRIM△/▽キーを使ってTONEを選択し、SOUNDキーを押す。**

❸ **TONE ONを選択してもう一度SOUNDキーを押すと、次の順番で切り換わります。**

BASS ：バス(低音)レベルの設定。
TREBLE：トレブル(高音)レベルの設定。

❹ **TRIM△/▽キーを使ってトーンレベルを設定する。**

- バスとトレブルのレベルは−10から+10の範囲で2ステップごとに調節できます。
- 設定終了後約20秒間過ぎるとトーンレベル設定モードは自動的に終了します。

一時的に音を消す

MUTEキーを使ってスピーカーから出る音を消すことができます。

MUTE キーを押す。

解除するには

もう一度MUTEキーを押して "MUTE" 表示を消灯させせます。

- **VOLUME CONTROL**つまみを回した場合(または**VOLUME**△/▽キー)を押した場合はMUTE ONは解除されます。

ACTIVE EQモード

ドルビーデジタルおよび DTS再生、そしてPCMおよび アナログステレオモードにおいてACTIVE EQ機能をONにするとより印象的な音声効果を楽しむことができます。

ACTIVE EQキーを押すと以下のように切り換わります。

① **EQ CINEMA** ：映画を見る際に効果があります。(ACTIVE EQ.表示が点灯)
② **EQ MUSIC** ：音楽を聴く際に効果があります。(ACTIVE EQ.表示が点灯)
③ **EQ OFF** ：ACTIVE EQ.機能が解除されます。(ACTIVE EQ.表示が消灯)

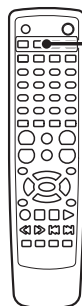
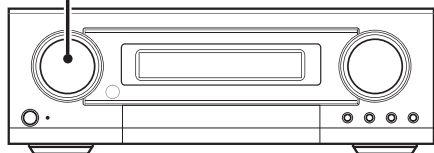
- ACTIVE EQ.機能は録音中、DTS-ES MATRIXがオンのとき、または96kHz リニアPCMを再生しているときには使用できません。

ヘッドホンで聴く

❶ **ヘッドホンをPHONES端子につなぐ。**

- ステレオミニプラグ付きのヘッドホンを使用します。
- スピーカーから音が出なくなります。

❷ **VOLUME CONTROLつまみ (またはVOLUME△/▽キー)で音量を調節する。**

録音のしかた（アナログ音声）

音楽ソースを録音する

❶ **INPUT SELECTOR（インプット セレクター）つまみ (またはINPUT SELECTOR（インプット セレクター）キー)で録音するソース（“VIDEO 1” 以外）を選ぶ。**

- ソース機器のアナログ音声出力を本機に接続していないと録音はできません。 →14

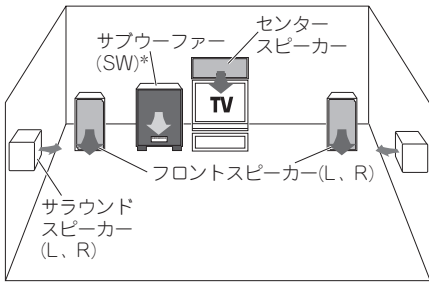
❸ **ソースを再生し、録音を開始する。**

臨場感を楽しむ

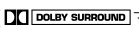
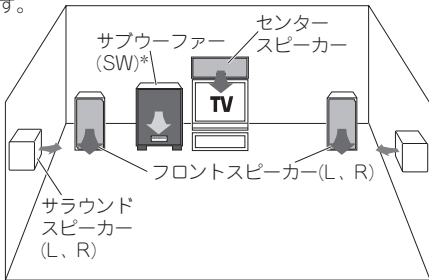
本機のリッスンモードを使って、いろいろな種類の映像ソフトで、臨場感をお楽しみいただけます。
サラウンドモードを最高の状態でお使いいただくため、ご使用前に、スピーカーの設定を行ってください。 ➞19

サラウンドモードの種類

Dolby Digital

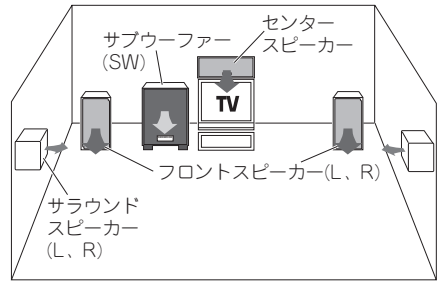
ドルビーデジタルサラウンドモードでは、ドルビーデジタルプログラムソース（DOLBY DIGITALマークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなど）からの5.1チャンネルのデジタル入力を、デジタルサラウンドサウンドでお楽しみいただけます。今までのドルビーサラウンドと比べて、ドルビーデジタルモードは、音質、空間的な広がり、そしてダイナミックレンジの面で、はるかに優れた効果を演出します。
ご注意
5.1チャンネルのドルビーデジタルサラウンドサウンドを聴くためには、フロントスピーカー（左右）、センタースピーカー、サラウンドスピーカー（左右）、サブウーファーを接続する必要がありますが、本機はフロントスピーカーだけを接続していても、ドルビーデジタルやドルビープロロジックがプログラムされているソースをお楽しみいただけます。

*このモードではオプション

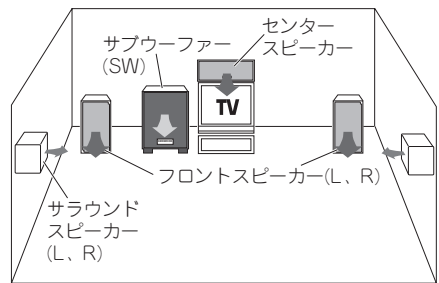
* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。
このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに“LFE”表示が点灯します。
ドルビーデジタルサウンドトラックは、独立して低周波数チャンネルを持っていますが、サブウーファーを接続すると、他のサラウンドモードにおいても、低音の音質をよくすることができます。

DTS (Digital Theater Sysytem)

DTSは新しいサラウンド方式で、ドルビーデジタルを上回るデータ量を持ち、より高音質のサラウンド再生ができます。dtsマークの付いたDVDやレーザーディスクソフトなどを再生することができます。信号のチャンネル数は、ドルビーデジタルと同じ5.1チャンネルですがデジタル録音時の音声圧縮率を低くしたフォーマットであるため、音の厚みのある高S/Nの再生が可能になっています。また、ダイナミックレンジが広くセパレーションに優れるなど緻密で雄大なサラウンドが特長です。

*このモードではオプション

* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。
DTSには5.1またはLFEチャンネルがあります。
このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに“LFE”表示が点灯します。

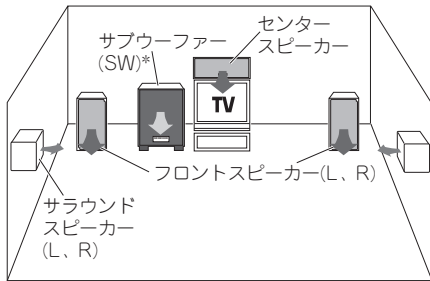
Dolby PRO LOGIC II

この新しいサラウンドシステムは、特に空間的な広がりや指向性、音の明瞭さに重点をおいて設計されています（DOLBY SURROUNDマークのあるビデオやレーザーディスクソフト等）。すぐれたフィードバックロジック設計を内蔵し、サラウンドやステレオのマトリックスデコーディング、全帯域サラウンド出力が特長です。本機にプログラムされているPRO LOGIC IIモードは、MOVIE、MUSIC、PRO LOGICの3種類です。PRO LOGIC IIのMOVIEモードは映画に、MUSICモードは音楽再生に適するよう、計算された質の高いサラウンドサウンドを再生するプログラムがなされています。

DSPモード

DSP（デジタルシグナルプロセッサ）サラウンドモードは、ソースに合わせて劇場やコンサートホールなどの雰囲気を選択することができます。CDプレーヤやテレビ、FMラジオなどのステレオ信号を入力しているときに有効です。
コンサートやスポーツなどをよりいっそうお楽しみいただけます。

DSPについて

通常音質は周囲の環境、特に残響音によって左右されます。DSPは入力ソースに、その音質をそこなわず、コンサートホールなどの残響音を加えるものです。

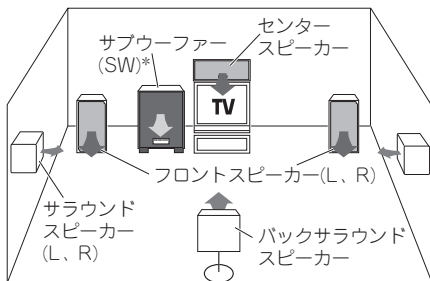
AACマルチチャンネルモード

BSデジタル放送のマルチチャンネル音声フォーマットであるAAC方式(Advanced Audio Coding)に対応。BSデジタル放送で配信されるマルチチャンネルの映画などを最大5.1チャンネルの臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

*このモードではオプション

* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。

Dolby Digital EX

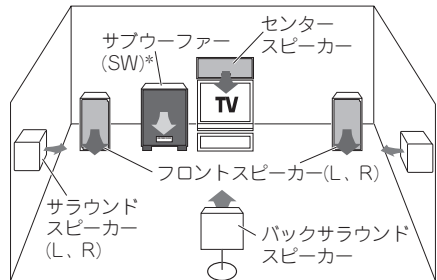
Dolby Digital EXはDolby Digitalの延長線上の技術です。Dolby Digital EXは6.1チャンネルのソースから各チャンネルが音声帯域全体をカバーする6つの出力チャンネルを再生します。これはマトリクスデコーダーを使い2つのサラウンドチャンネルから3つのサラウンドチャンネルをとりだすことにより実現されます。各サラウンドチャンネルはサラウンドレフト、サラウンドライトおよびバックサラウンドでそれぞれのスピーカー群を駆動します。背後にバックサラウンドスピーカーを置くことを想像してみて下さい。これにより音に包まれる、または飛び回る音を再現することができ、より自然な音響効果を楽しむことができます。Dolby Digital EXはDolby Digital Surround EX技術を使って録音されたサウンドトラックの再生に適しています。Dolby Digital Surround EX技術を使って録音されたサウンドトラックはDolby Digital EXを作動させるためのフラッグ(符合)もあわせて録音されていますが、2001年以前に発売されたCD,DVDまたはLDはこのフラッグが録音されていないため手動でリッスンモードを設定しなければならないものもあります。

ご注意
6.1チャンネルのドルビーデジタルサラウンドサウンドを聴くためには、フロントスピーカー(左右)、センタースピーカー、サラウンドスピーカー(左右)、バックサラウンドスピーカー、サブウーファーを接続する必要がありますが、本機はフロントスピーカーだけを接続していても、ドルビーデジタルサラウンドがプログラムされているソースをお楽しみいただけます。

*このモードではオプション

* LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。
このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに "**LFE**" 表示が点灯します。
ドルビーデジタルサウンドトラックは、独立して低周波数チャンネルを持っていますが、サブウーファーを接続すると、他のサラウンドモードにおいても、低音の音質をよくすることができます。

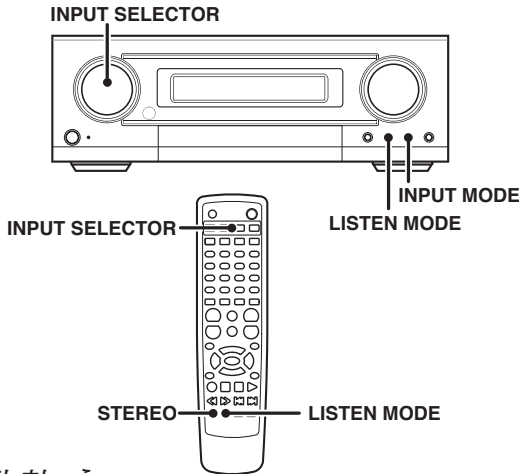
DTS-ES

DTS-ES (Extended Surround) は　従来の5.1chのサラウンドを発展させ、バックサラウンドチャンネルが加わった6.1chサラウンド方式です。DTS-ESフォーマットはDVD, CD または LD等のメディアにあらかじめ記録され、完全に独立したバックサラウンドを持つDTS-ES Discrete 6.1 と　マトリクス技術を駆使し左右のサラウンドチャンネルに埋め込まれたバックサラウンドを再生する DTS-ES Matrix 6.1 の2つのモードがあり、どちらも従来の5.1chフォーマットとの互換性を完全に持ちます。加えられたバックサラウンドチャンネルによる6.1chサラウンド再生は　後方からの音像定位感が増し、より自然な臨場感、音響効果をもたらします。DTS-ES 技術を使って記録されたプログラムソースには Discrete と Matrix のモードを動作させる情報もあわせて記録されていて、この製品は自動的にモードを選択します。

NEO:6はDTS社が開発した新しい技術で、高精度のマトリクス処理技術により2チャンネル信号から臨場感あふれる高品位な 6チャンネルサラウンドを楽しむことが可能です。NEO:6には映画を楽しむための "CINEMA" モードと音楽を楽しむための "MUSIC" モードの2つのモードがあります。

*このモードではオプション

*LFE = Low Frequency Effectsの略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。
DTSには.1またはLFEチャンネルがあります。
このチャンネルが入力されているときは、ディスプレイに "**LFE**" 表示が点灯します。

サラウンド再生

DTSリッスンモードはDTSマークの付いたCD、DVDまたはLDのサウンドソースを再生できます。DOLBY DIGITALリッスンモードは DOLBY DIGITAL マークの付いたDVDまたはLDの再生およびドルビーデジタルフォーマットのデジタル放送を受信する時に使います。DOLBY PRO LOGICリッスンモードは DOLBY SURROUND マークの付いたDVDビデオまたはLDを再生する時に使用できます。
AACリッスンモードはBSデジタル放送のAACデジタル信号を再生するときに使います。

準備しましょう

- 使用する関連機器の電源をオンにする。
- サラウンド再生の準備をする(「スピーカーの設定をする」)。 →19
- **INPUT SELECTOR**つまみ(または**INPUT SELECTOR**キー)で再生したい入力ソースを選ぶ。
- **INPUT MODE**キーで、再生したいソースのインプットモード(アナログまたはデジタル)を選ぶ。 →13
- インプットモードをアナログに設定するとDTSソースを再生したときにノイズがでることがあります。

1 ビデオソフトなどを再生する。

2 LISTEN MODEキーでリッスンモードを選ぶ。

リッスンモードの設定は、それぞれの入力で独立して記憶しています。インプットモードがフルオートに設定されていると、入力信号のタイプやスピーカー設定の内容に合うリッスンモードが自動的に選ばれます。

LISTEN MODEキーを押すたびに以下のように設定が変わります。このとき、以下のリッスンモードの中から、現在の入力信号の種類やスピーカーの設定で再生できるモードのみが選べます。

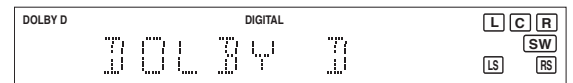
Dolby Digital Surround EX対応ディスクについて:
Dolby Digital Surround EX対応ディスクには識別信号が記録されています。本機のインプットモードの設定(→13)で、FULL AUTOを選んだときには、そのディスクの識別信号によりリッスンモードをDOLBY D EX (Dolby Digital EXモード)に切り換えて再生します。まれに対応ディスクであっても、この識別信号が記録されていないディスクがあります。ディスクのパッケージやレーベルに"Surround EX"、"サラウンドEX"等の表記があれば、識別信号のないディスクでもリッスンモードをDOLBY D EXに切り換えると、Dolby Digital EXモードで再生できます。

- リッスンモードをステレオに切り換えるときは、**STEREO**キーを押します。

DOLBY DIGITAL EXまたはDOLBY DIGITAL信号を入力しているとき:

(DOLBY DまたはDOLBY PL IIのいずれかの表示が点灯します。)

① **DOLBY D** :DOLBY DIGITAL EXサラウンド 。
(DOLBY D EX表示が点灯)
DOLBY DIGITALの時、またはBS(バックサラウンドスピーカー)がOFFの時は表示されません。
② **DOLBY D** :DOLBY DIGITALサラウンド 。
(DOLBY D表示が点灯)
③ **MOVIE** :PRO LOGIC IIサラウンド MOVIEモード。
(DOLBY PLII表示が点灯)
④ **PRO LOGIC** :PRO LOGIC IIサラウンドモード。
(DOLBY PL表示が点灯)
⑤ **STEREO** :通常のステレオ再生。

DOLBY DIGITALを選んだとき
DOLBY Dの文字が表示されます。

DTS、DTS-ES(マトリックスまたはディスクリート)またはAAC信号を入力しているとき:

① **DTS** :DTS 5.1chサラウンド
(DTS表示が点灯)
② **MTRX 6.1** :DTS-ES 6.1chマトリクスサラウンド
(DTS-ESおよびMATRIX 6.1表示が点灯)
③ **DSCRT 6.1** :DTS-ES 6.1chディスクリートサラウンド
(DTS-ESおよびDISCRETE 6.1表示が点灯)
④ **AAC**
⑤ **STEREO** :通常のステレオ再生。

AACを選んだとき、二重音声放送の主音声/副音声の切り換えは、"主音声/副音声の切り換え"をご覧ください。 →30

DOLBY DIGITAL、DTS以外のアナログ信号またはデジタル信号のとき:

① **MOVIE** :PRO LOGIC IIサラウンド MOVIEモード。
(DOLBY PL II表示が点灯)
② **MUSIC** :PRO LOGIC IIサラウンド MUSICモード。
(DOLBY PL II表示が点灯)
③ **PRO LOGIC** :PRO LOGIC IIサラウンド PRO LOGICモード。
(DOLBY PL表示が点灯)
④ **CINEMA** :NEO:6サラウンド。
(NEO:6表示が点灯)
⑤ **MUSIC** :NEO:6サラウンド。
(NEO:6表示が点灯)
⑥ **ARENA** :DSPサラウンド ARENAモード。
(DSP表示が点灯)
⑦ **JAZZ CLUB** :DSPサラウンド JAZZ CLUBモード。
(DSP表示が点灯)
⑧ **STADIUM** :DSPサラウンド STADIUMモード。
(DSP表示が点灯)
⑨ **DISCO** :DSPサラウンド DISCOモード。
(DSP表示が点灯)
⑩ **THEATER** :DSPサラウンド THEATERモード。
(DSP表示が点灯)
⑪ **STEREO** :通常のステレオ再生。

- ドルビーデジタルやDTSやAAC信号で、現在のスピーカー設定以上のチャンネル数が入力された場合は、自動的にダウンミキシング機能が働き、現在のスピーカー設定に合わされます。
- DSPモード選択は約3秒間表示されます。

3 音量を調節する。

リッスンモードを一時的にSTEREOモードにするには

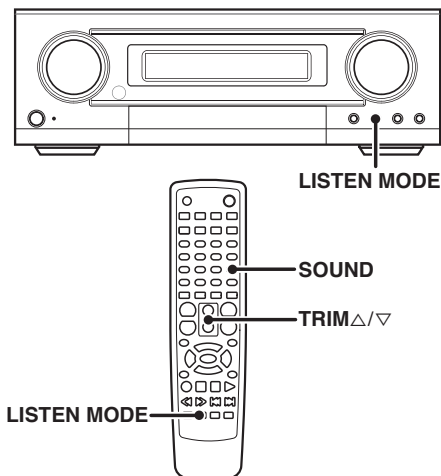
STEREOキーを押すと、現在選択されているリッスンモードをSTEREOモードに切り換えることができます。もう1回押すと、元のリッスンモードに戻ります。

- STEREOキーを使い、リッスンモードを切り換えると、DSPモードは自動的に解除されます。
- 電源を切り、再び電源をオンにしたときも、元のリッスンモードに戻ります。

ご注意

- 入力信号の種類や設定したスピーカーのタイプによって、選ぶことができないモードがあります。
- サラウンド効果がうまく得られない場合や、お好みのモードが選べない場合は、スピーカーの設定、インプットモードの設定をご確認ください。

SRS TruSurround 再生

LISTEN MODEでSTEREOを選び、かつ入力がAACモード以外の信号の場合、SRS TruSurroundによるサラウンド効果を楽しむことができます。

1 ***LISTEN MODEキーで、STEREOを選ぶ。*** → 28

2 ***SOUNDキーを押して、サウンド設定モードにする。***

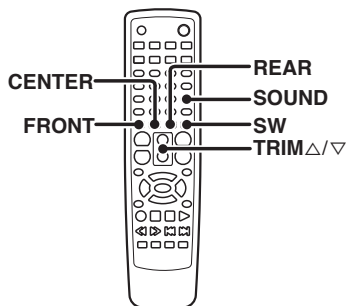
3 ***TRIM △/▽ キーでT.SURRを選び、SOUNDキーを押す。***

- AAC信号が入力されている場合は、**T.SURR**のかわりに **AAC AUDIO**と表示されます。

4 ***TRIM △/▽ キーを使って、SRS TruSurroundの設定をする。***

① **T.SURR ON** **:** SRS TruSurround ON
② **T.SURR OFF** **:** SRS TruSurround OFF

5 ***SOUNDキーを押して入力表示に戻す。***

- 調整項目は約20秒間表示されます。

各チャンネルの音量を調整する

再生中に各チャンネルの音量を調整することができます。

❶ FRONTキーを押すと、フロントスピーカーLチャンネルのレベル設定表示になります。

❷ TRIM △/▽ キーを使って好みの音量に調整します。

❸ もう一度FRONTキーを押すと、フロントスピーカーRチャンネルのレベル設定表示になります。

❹ TRIM △/▽ キーを使って好みの音量に調整します。

❺ もう一度FRONTキーを押すと、セレクタ表示に戻ります。

- 各チャンネルともレベルは-10dBから+10dBの範囲で1dBずつ調整できます。
- 調整項目は約5秒間表示されます。
- センタースピーカーチャンネル、サブウーファースピーカーチャンネルのレベルを調整したいときは、それぞれ**CENTER, SW**キーを押します。
- サラウンドスピーカーチャンネルのレベルを調整したいときは、**REAR**キーを押します。**REAR**キーを押すたびに, LS(サラウンドスピーカーLチャンネル)、BS(バックサラウンドスピーカーチャンネル)、RS(サラウンドスピーカーRチャンネル)、と表示が切り替わります。

主音声/副音声の切り換え（AAC信号のみ）

BSデジタル放送の2ヶ国語放送、音声多重放送の二重音声放送は、主音声/副音声を切り換えることができます。

❶ SOUNDキーを押し、TRIM △/▽ キーを使って“AAC AUDIO”を表示する。

❷ TRIM △/▽ キーを使って音声を選ぶ。

①	MAIN	: 主音声
②	SUB	: 副音声
③	MAIN/SUB	: 主音声+副音声

- モノラルでない二重音声放送は、音声の切り換えは本機ではできません。チューナー側で音声を切り換えてください。

❸ SOUNDキーを押し、確定する。

- BSデジタルチューナー、BSデジタルチューナー内蔵テレビなど、接続機器のデジタル音声出力設定を "AAC" 信号出力に設定してください。
- デジタル音声の出力を "PCM" 信号に設定されていると、AACマルチチャンネル音声での再生はできません。
  BSデジタルチューナーの音声の設定のしかたは、その機器の取扱説明書をご覧ください。
- BSデジタルチューナーのデジタル音声出力を "AAC" 信号出力に設定しても、番組によってはアナログ音声しか出力されない場合もあります。アナログ音声出力も本機に接続することをおすすめします。

ミッドナイトモード（ドルビーデジタルモードのみ）

夜中に映画を見るときなど、音量をあまり上げられないことがあります。このミッドナイトモードを選ぶと、ドルビーデジタルの映像ソフトであらかじめ指定されていろ部分（急に音量が大きくなるシーンなど）だけを、音声信号レベルの上限から下限の幅を圧縮し、指定されていない部分との音量差を少なくします。これにより、小さな音量でもすべての部分が聴きやすくなります。お好みでお楽しみください。

❶ SOUNDキーを押して、サウンド設定モードにする。

- DVD/CD、VIDEO 2または、FRONT AUXの入力で、サウンドモードがドルビーデジタルのときのみ選べます。

❷ TRIM △/▽ キーでNIGHTを選び、SOUNDキーを押す。

❸ TRIM △/▽ キーを使って、ON/OFFを選ぶ。

①	NIGHT ON	: ミッドナイトモード ON
②	NIGHT OFF	: ミッドナイトモード OFF

❹ SOUNDキーを押して、入力表示に戻す。

- 調整項目は約20秒間表示されます。
- ドルビーデジタルの映像ソフトには、ミッドナイトモードに対応していないものもあります。

ディスプレイの明るさを調節する

本機のディスプレイの明るさを選べます。部屋を暗くして映画を見たり、音楽を聴くときに便利です。

❶ **SET UPキーを押し、"DIMMER"が表示されるまでTRIM△/▽キーを押す。**

❷ **SET UPキーを押し、お好みによりTRIM△/▽キーで"DIMMER H"または"DIMMER L"を選ぶ。**

① **DIMMER H : 明るい**
② **DIMMER L : 暗い**

❸ **SET UPキーを押し、"DIMMER"表示に戻す。**

❹ **TRIM△/▽キーで"EXIT"を選び、SET UPキーを押す。**

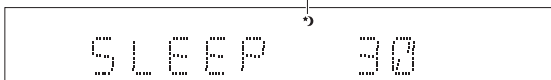
おやすみタイマー(SLEEP)

設定したタイマー時間が過ぎると、自動的に電源がオフ(スタンバイ)になります。10分単位で最長90分まで設定できます。

SLEEPキーを繰り返し押して、何分後に電源をオフ(スタンバイ)にするかを選ぶ。

- 一回押すごとに10分ずつ増えていきます。

10 → 20 → 30 ..... 70 → 80 → 90 → 解除 → 10 → 20 → .....

おやすみタイマー表示が点灯

- おやすみタイマー動作中は、ディスプレイの明るさが自動的に暗くなるように設定されています。(オートディマー機能)
- おやすみタイマー動作中に、**SLEEP**キーを押すと、残り時間の確認ができます。
- おやすみタイマーを解除するには、電源をオフ(スタンバイ)にするか、または**SLEEP**キーを繰り返し押して**SLEEP OFF**にします。

96kHz リニアPCMの再生

96kHz リニアPCMに対応しています。96kHz DVDをお聞きになる場合はリッスンモードを"STEREO"にしてください。

- **FULL AUTO**(フルオート)入力モードでは、リッスンモードは自動的にSTEREOに切り換わります。
- **D. MANUAL**(デジタルマニュアル)入力(STEREO以外のモードが選ばれているとき)では、"FS 96kHz"が表示され、スピーカーからは音が聞こえません。
  LISTEN MODEまたは**STEREO**キーを押すとSTEREOモードに切り換わり、スピーカーから音が聞こえます。

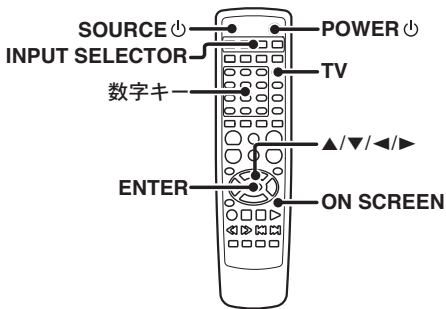
他の機器のリモコンの基本操作

本機に付属のリモコンで、他社製の機器でもセットアップコードをリモコンに登録すれば操作が可能になります。

電池が消耗したときのご注意
操作できる距離が短くなったら、2本とも新しい電池と交換してください。リモコンは電池を取り替えている間でも、セットアップコードのメモリーを保持するように設計されています。

お手持ちの機器のセットアップコードを登録する

リモコンのINPUT SELECTORキーに登録できる機器は、下記の表のようになっています。
○印のリモコンINPUT SELECTORキーへ登録可能です。

リモコンの INPUT SELECTORキー / 登録する機器	DVD/CD	VIDEO1	VIDEO2	TV
ビデオ		○		
テレビ				○
衛星(BS/CS)チューナー			○	
ケーブル(CBL)チューナー			○	
DVDプレーヤー	○			
CDプレーヤー	○			

1 *登録する機器のセットアップコードを探す。*

- 登録する機器のセットアップコードは、セットアップコードリストの中から探してください。 →33
  例：ケンウッド製のDVDを登録する場合、"005"を入力する

入力	機器	メーカー名	コード	キー
(DVD)	DVDプレーヤー	ケンウッド	005	DVD/CD

2 *リモコンに機器を登録する。*

❶ **ENTERキーを押し続けながら、登録したいINPUT SELECTORキーまたはTVキーを押す。**
- LEDが2回点滅します。

❷ **数字キーを使って3桁のセットアップコードを入力する。**
- LEDが1回点滅します。

3 ***登録したINPUT SELECTORキーを押し、SOURCE キーを押して、コントロールしたい機器の電源がオンになるかをチェックする。または TV キーを押して、テレビの電源がオンになるかをチェックする。***

機器の電源がオンにならず、また他の設定コードがある場合はもう一度他の設定コードを登録する。

- コントロールする機器の電源がすでにオンになっていた場合はSOURCE キーを押すことによりオフとなります。

4 ***手順 2～3を繰り返し、追加したい機器を登録する。***

登録したセットアップコードを確認する

❶ **設定コードを入力した後、ENTERキーを押し続けながらINPUT SELECTORキーを押す。**
- LEDが2回点滅します。

❷ **ON SCREENキーを押す。**

- 登録されているセットアップコードの左から順番に、その数字の回数だけLEDが点滅します。
- 数字が"0"の場合は、LEDは10回点滅します。
  例：セットアップコードとして"028"が登録されている場合は、LEDは10回、2回、8回と点滅します。
- 10秒以内にON SCREENキーが押されないと、元の状態に戻ります。

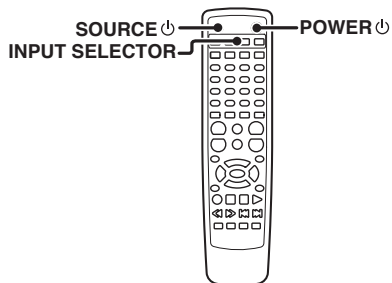
お知らせ
各セットアップコードは多数の機器で動作するように設計されていますが、機器によっては動作しないものもあります。（また、セットアップコードによっては、利用できる機能のうち、いくつかしか操作できないものもあります。）

セットアップコード表のコードを入力しても動かない場合の登録方法

❶ **ENTERキーを押し続けながら登録したいINPUT SELECTORキー、またはTVキーを押す。**
- LEDが2回点滅します。

❷ **▲/▼/◀/▶キーの、▲キーを繰り返し押して、登録したい機器の電源がオンになったらENTERキーを押す。**
- 電源がオンになった後に▲キーを押してしまった場合は、▼キーにて戻ることができます。

他の機器を操作する

リモコンに登録した機器の電源を、リモコンでオン、オフし、操作することができます。

1 INPUT SELECTORキーを使って操作したい機器の接続されているインプットチャンネルを選ぶ。

- INPUT SELECTORキーでインプットチャンネルを選ぶとアンプのインプットチャンネルは選ばれたインプットチャンネルになります。

2 SOURCE ⏻キーを押し、選んだインプットチャンネルに接続されている機器の電源をオンにする。

3 接続されている機器を操作するキーを押す →35 →36

リモートコントロールモードは選択されたモードのままになります。
他の機器を操作する場合は 2 と 3 を繰り返して下さい。

セットアップコード表

ビデオセットアップコード

メーカー	セットアップコード
AIWA	059
AKAI	061, 065, 066
BELL+HOWELL	058
DAEWOO	056
EMERSON	045, 046, 047, 048, 064
FISHER	042, 051, 052, 053
G.E.	037
GOLD STAR	038
GO VIDEO	060
HITACHI	063, 067
JVC	039, 040, 041, 071
MAGNABOX	033, 034, 035
MITSUBISHI	036, 072, 073, 074, 075, 076
NEC	054, 069
ORION	046
PANASONIC	085
PHILIPS	035
QUASAR	033, 034
SAMSUNG	049, 050, 068
SANYO	058
SCOTT	043
SHARP	078
SHINTOM	044
SONY	002, 027, 028, 029
SYNPHONIC	055
TEKNICA	055, 057
ZENITH	062

テレビセットアップコード

メーカー	セットアップコード
AKAI	061
BELL+HOWELL	077
CENTURION	062
DAEWOO	018, 058, 067, 069, 070, 078, 079, 080
EMERSON	064, 065,074, 075, 078
FISHER	059
FUNAI	112, 117, 118, 120
FUJITSU	105, 106, 127
G.E.	042, 055, 060
GOLD STAR	073, 076, 078, 079
HITACHI	049, 111, 119, 125, 131
JVC	048, 049
KORTINA	113, 114, 115, 121
KTV	068, 094
LOEWE	053, 054
MAGNAVOX	047, 056
MARANTZ	052
MATSUSHITA	122, 128, 129
MITSUBISHI	052, 123, 124, 130
NEC	108, 109
PANASONIC	055, 060, 092, 093
PHILIPS	047, 056
PIONEER	050, 110
PROSCAN	057
RADIOSHARK	063
RCA	042, 043, 044, 090
SAMSUNG	066, 079
SANYO	059, 101, 102, 103
SEARS	051, 097
SHARP	091, 126
SONY	041, 096, 098, 099, 100
SYMPHONIC	071, 072
TOSHIBA	051, 097, 107
QUASAR	092, 095
VICTOR	104, 116
ZENITH	045, 046

衛星（BS/CS）チューナーセットアップコード

メーカー	セットアップコード
G.I.	088
HITACHI	072
HUGHER	075
PANASONIC	092
PRIMESTAR	090
RCA	073
SONY	071
TOSHIBA	074

セットアップコード表

ケーブル(CBL)チューナーセットアップコード

メーカー	セットアップコード
G.I.	036
JERROLD	044, 045, 046, 047, 048, 054, 089
MACOM	038, 039, 040
OAK	037, 055
PANASONIC	042, 079, 080
PHILIPS	041, 050, 051, 052, 053, 056, 078
PIONEER	077
SAMSUNG	043
S.ATLANTA	049, 078
TOCOM	035

DVDプレーヤセットアップコード

メーカー	セットアップコード
HITACHI	024
JVC	031
KENWOOD	000, 005, 019, 062
MITSUBISHI	029
ONKYO	020, 021
PANASONIC	061
PIONEER	022
PROSCAN	030
RCA	030
SAMSUNG	028
SONY	027
TOSHIBA	023
YAMAHA	026
ZENITH	023, 025

CDセットアップコード

メーカー	セットアップコード
AIWA	042, 072
BURMESTER	051
CALIFORNIA AUDIO LAB	034
CARVER	042, 044, 052
DKK	032, 033
DENON	070, 076
FISHER	044, 075
GARRARD	050, 051
GENEXXA	036, 077
HARMAN/KARDON	042, 043
HITACHI	036
JVC	039
KENWOOD	035, 048, 056, 057, 071
KRELL	042
LINN	042
MCS	034
MTC	051
MEGAVOX	042, 077
MARANTZ	034, 042, 045
MISSION	042
NSM	042
NIKKO	059, 075
ONKYO	040, 058
OPIMUS	033, 036, 041, 044, 051, 052, 053, 071, 077
PANASONIC	032, 034, 073
PARASOND	051
PHILIPS	042, 055
PIONEER	036, 049, 053
PROTON	042
QED	042
QUASAR	034
RCA	038, 044, 077, 078
REALISTIC	044, 045, 051
ROTEL	042, 051
SAE	042
SANSUI	042
SANYO	044
SCOTT	077
SEARS	077
SHARP	045, 077, 079
SHERWOOD	000, 013, 027, 038, 039, 040, 041
SONY	033, 046, 054
SOUNDESIGN	032, 041
TASCAM	051
TEAC	045, 050, 051, 075
TECHNICS	034, 073
VICTOR	039
WARDS	038, 042
YAMAHA	037, 047
YORX	074

他の機器をリモコンで操作する

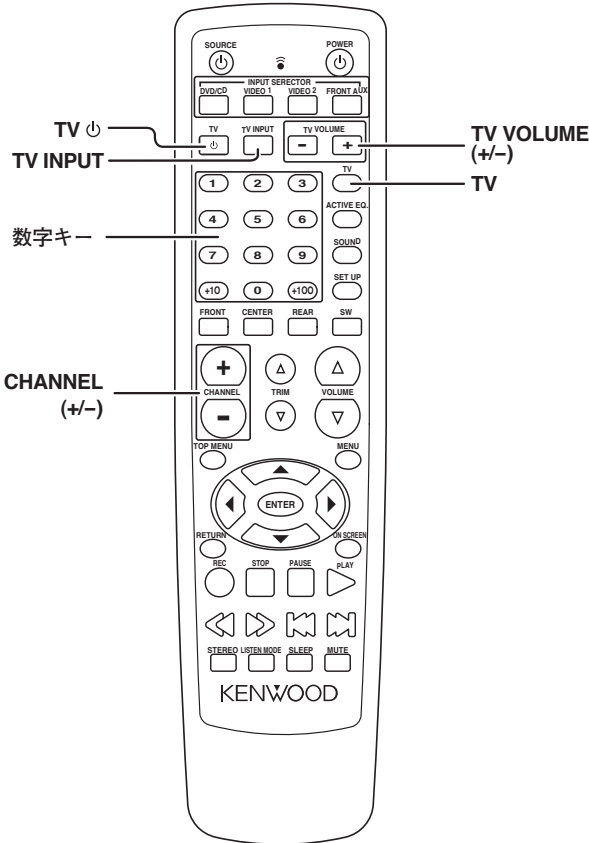
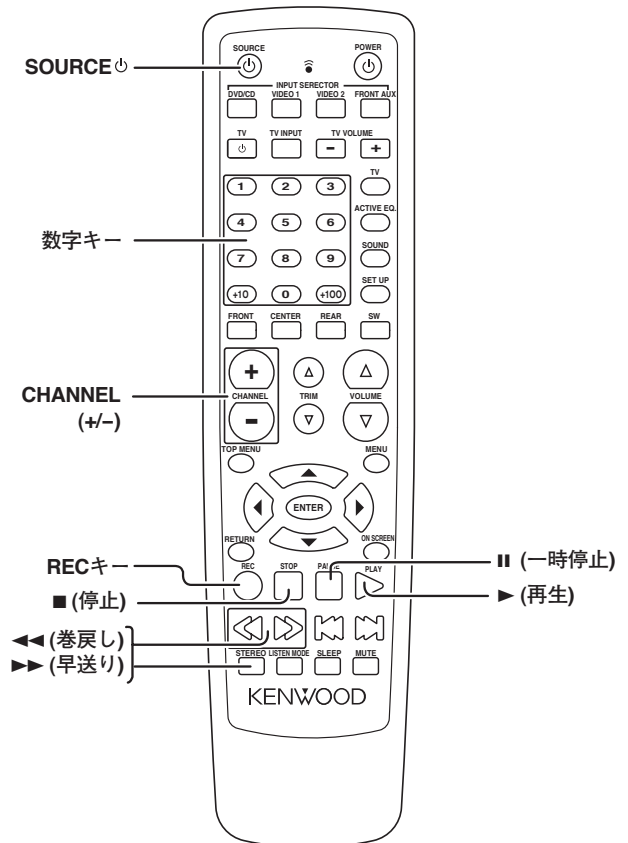
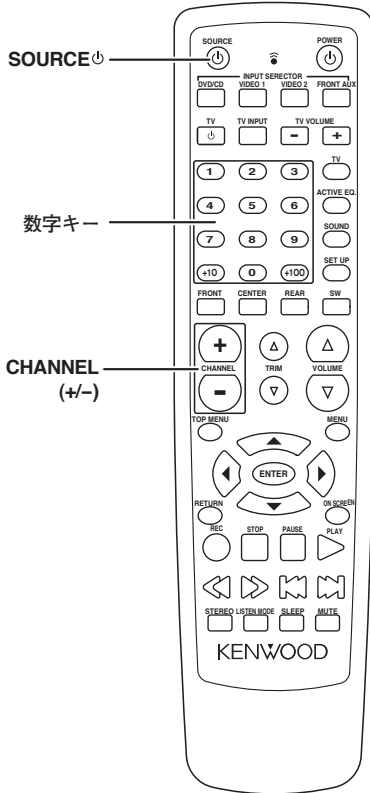
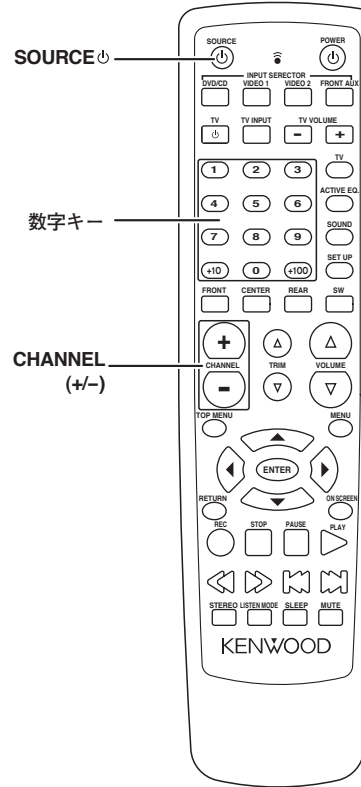
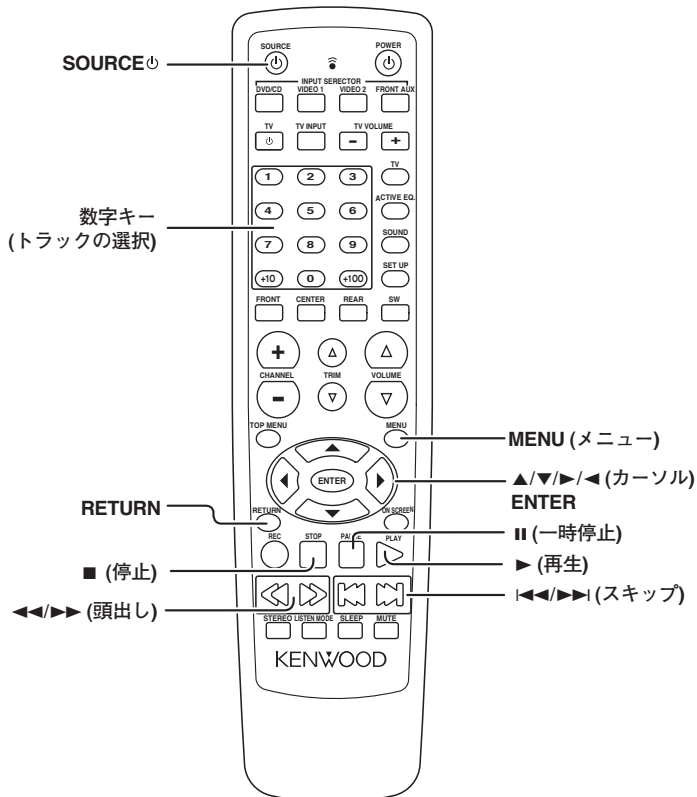
各機器の、リモコンで操作できる内容については、下記をご覧ください。

❶ 操作したい機器のリモコンコードを記憶させたINPUT SELECTOR（DVD/CD、VIDEO 1、VIDEO 2、TV）キーを押す。
❷ 以下の章を参考にして選択した機器の操作を行う。

- 続けて複数のキーを操作するときは、1つのキーをしっかり押したあと1秒以上待ってから次のキーを押してください。
- 数字キーは、各機器に付属のリモコンの数字キーと同じ働きをします。

本キーによりケンウッド製および設定コードにより事前に入力された他社製装置の基本操作を行えます。 ➞ 32

テレビ操作キー

TV ⏻
TV INPUT
数字キー
CHANNEL (+/–)
TV VOLUME (+/–)
TV

ビデオ操作キー

衛星（BS/CS）チューナー操作キー

ケーブル(CBL)チューナー操作キー

DVDプレーヤ操作キー

故障かな?と思ったら

マイコンをリセットするには

電源がオンのときの接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作(操作できない、ディスプレイの誤表示など)することがあります。この場合、次の手順をお試しください。マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

⏻ (POWER)キーを押して電源をオフにし、電源プラグをコンセントから抜いたのち、⏻ (POWER)キーを押しながら、電源プラグをコンセントに差し込む。

●リセットにより、各種の記憶内容は消去され、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

アンプ部

症　状	原　因	処　置
音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。 ●音量を最小にしている。 ●**MUTE**がオンになっている。	●「スピーカーの接続」をみて正しく接続し直す。 →15 →16 ●適当な音量にする。 ●MUTEをオフにする。 →24
スタンバイインジケーターが点滅し、音が出ない。	●スピーカーコードがショートしている。	●一時 電源スイッチを切り、ショートを取り除き、再度 電源スイッチを入れる。
スピーカーの片側から音が出ない。	●スピーカーコードがはずれている。	●「スピーカーの接続」をみて正しく接続し直す。 →15 →16
サラウンドスピーカーまたはセンタースピーカーから音が出ない、または音が小さい。	●サラウンドスピーカー、センタースピーカーが接続されていない。 ●サラウンドモードになっていない。 ●サラウンドレベルおよびセンターレベルが最小になっている。	●「スピーカーの接続」をみて正しく接続し直す。 →15 →16 ●サラウンドモードにする。 ●テストトーンを使って、スピーカーのレベルを調節する。 →21
DVDプレーヤーでドルビーデジタルのソースの再生を始めると最初の音が切れる。	●DVDプレーヤーの種類によって、いろいろな原因があります。	●インプットモードをデジタルマニュアルにしてからドルビーデジタルのソースを再生する。 →13
DVDを再生しても、音が出ない。	●インプットモードがデジタルマニュアルに設定されている。	●INPUT MODEキーを押して、デジタルオートを選ぶ。 →13
BSデジタル放送のAACマルチチャンネル音声放送がマルチチャンネル音声で再生できない。	●AAC信号が入力されていない。	●BSデジタルチューナーのデジタル出力の設定をAAC出力にする。
BSデジタル放送の音声切り換えができない。	●放送によっては音声は本機では切り換えることができません。	●BSデジタルチューナー側で音声を切り換える。

リモコン操作

症　状	原　因	処　置
リモコンを使って、選べない入力がある。	●各入力に対して、セットアップコードが登録されていない。	●それぞれの入力に対するセットアップコードまたは入力表示用のコードを登録する。 →32
リモコンで操作できない。	●リモコンが違った操作モードに設定されている。 ●電池切れ。 ●操作する位置が遠すぎる、角度がずれている。または障害物がある。 ●再生しようとする機器に、テープ、CDが入っていない。 ●録音中のカセットデッキで再生しようとしている。	●**INPUT SELECTOR**キーを押して、適切な操作モードを選ぶ。 ●新しい電池と交換する。 ●操作範囲内で操作する。 →18 ●再生しようとする機器に、テープ、CDを入れる。 ●録音が終わるまで待つ。

定格

⚠このページは安全確保のために必ずお読みください。

KAF-S500

オーディオ部

ステレオ モード
　実用最大出力 .... 50 W + 50 W（JEITA規格、6 Ω）
サラウンドモード（1ch動作時）
　最大出力
　FRONT（フロント） .... 50 W + 50 W（1 kHz、10%、6 Ω）
　CENTER（センター） .... 50 W（1 kHz、10%、6 Ω）
　SURROUND（サラウンド） .... 50 W + 50 W（1 kHz、10%、6 Ω）
　SUBWOOFER/BACK SURROUND（サブウーファー/バックサラウンド） .... 50 W + 50 W（1 kHz、10%、6 Ω）
入力端子（感度/インピーダンス）
　Line (CD/DVD、VIDEO 1、VIDEO 2、FRONT AUX)
　............ 270 mV / 200 kΩ

デジタル部

対応サンプリング周波数 .... 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz
入力端子（感度/波長）
　オプチカル .... （-15 dBm ～ -24 dBm）660 nm ±30 nm

電源部・その他

電源電圧・電源周波数 .... AC100V、50Hz/60Hz
定格消費電力（電気用品安全法に基づく表示） .... 110 W
待機時消費電力 .... 0.9 W
最大外形寸法 .... 幅： 220 mm
高さ： 78 mm
奥行：329 mm
質量（重量） .... 3.0 kg（正味）

KSW-S500

［フロント・スピーカー］
エンクロージャー .... 密閉型
防磁 .... あり（JEITA規格）
ツイーター 2.5cmドーム型
ウーファー .... 5cm コーン型
インピーダンス .... 8 Ω
再生周波数帯域 .... 140 Hz～40,000 Hz
出力音圧レベル .... 78 dB
クロスオーバー周波数 .... 8 kHz
定格入力 .... 25 W
最大入力 .... 50 W
最大外形寸法（グリル含む） .... 幅： 77 mm
高さ：140 mm
奥行：114 mm
質量（重量） .... 0.6 kg（1本）
付属スピーカーケーブル .... 4.5m（2本）

［センター・スピーカー］
エンクロージャー .... 密閉型
防磁 .... あり（JEITA規格）
ツイーター 2.5cmドーム型
ウーファー .... 5cm コーン型 x 2
インピーダンス .... 8 Ω
再生周波数帯域 .... 130 Hz～40,000 Hz
出力音圧レベル .... 80 dB
クロスオーバー周波数 .... 8 kHz
定格入力 .... 25 W
最大入力 .... 50 W
最大外形寸法（グリル含む） .... 幅：210 mm
高さ： 77 mm
奥行：114 mm
質量（重量） .... 0.9 kg
付属スピーカーケーブル .... 3m（1本）

［サラウンド・スピーカー］
エンクロージャー .... 密閉型
防磁 .... あり（JEITA規格）
フルレンジ .... 5cm コーン型
インピーダンス .... 8 Ω
再生周波数帯域 .... 140 Hz～20,000 Hz
出力音圧レベル .... 78 dB
定格入力 .... 25 W
最大入力 .... 50 W
最大外形寸法（グリル含む） .... 幅： 77 mm
高さ：140 mm
奥行：114 mm
質量（重量） .... 0.6 kg（1本）
付属スピーカーケーブル .... 8m（2本）

［サブウーファー］
エンクロージャー .... バスレフ型
防磁 .... あり（JEITA規格）
ウーファー .... 16cm コーン型
インピーダンス .... 8 Ω
再生周波数帯域 .... 43 Hz～150 Hz
出力音圧レベル .... 82 dB
定格入力 .... 25 W
最大入力 .... 50 W
最大外形寸法（グリル含む） .... 幅：220 mm
高さ：300 mm
奥行：287 mm
質量（重量） .... 4.9 kg
付属スピーカーケーブル .... 4.5m（1本）

ご注意
　1.これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
　2.極端に寒い（水が凍るような）場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

メモリーバックアップ

本機に通電されていない状態にしてから、約1日ほど経過すると、以下の内容が消えますのでご注意ください。

- 入力切換の設定
- ボリュームの値
- TONE オン／オフ
- BASS、TREBLEレベル
- リッスンモードの設定
- スピーカーセットアップの内容
- 各チャンネルのレベル
- 距離の設定

保証とアフターサービス（よくお読みください）

保証書（別途添付）

製品には保証書が（別途）添付されております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。
電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理に関するご相談ならびにご不明な点は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。
（お問い合わせ先は、添付の「ケンウッドサービス網」をご覧ください。）

補修用性能部品の保有期間

当社は、このステレオの補修用性能部品を、製造打ち切り後8年保有しております。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

シリアル番号について

システム商品の各機器にシリアル番号が付けられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。
付属の保証書で、お買い上げのシステム機器（基本システム）すべての保証修理が受けられます。

修理を依頼される時は

「故障かな？と思ったら」に従って調べていただき、なお異常がある時は、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

保証期間中は

保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービス窓口が修理をさせていただきます。
修理に際しましては保証書をご提示ください。

出張修理／持込修理

「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼される時は、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号（Serial No.）
- お買い上げ年月日
- 故障の症状（できるだけ具体的に）
- ご住所（ご近所の目印等も併せてお知らせください）
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

保証期間が過ぎている時は

保証期間が過ぎている時は、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金の仕組み

（有料修理の場合は、次の料金をいただきます）

- 技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代：修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料：製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。
- 送　料：郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行うにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

お買上げ店名

電話（　　　　）　　　　-

ケンウッド サービス網

2003年7月現在

製品に対するお問合せ、アフターサービスについてのお申し込みは、お買い上げの販売店または最寄りのケンウッドサービス窓口にお申しつけください。

北海道			
札幌サービスセンター	〒007-0834	札幌市東区北34条東14-1-23	☎(011) 743-7740
東北			
仙台サービスセンター	〒984-0042	仙台市若林区大和町5-32-12(サンライズ大和)	☎(022) 284-1171
盛岡サービスステーション	〒020-0124	盛岡市厨川4-5-11	☎(019) 646-2311
関東・甲信越			
埼玉サービスセンター	〒362-0032	上尾市日の出3-9-1	☎(048) 775-9730
千葉サービスセンター	〒277-0081	柏市富里1-2-1	☎(04) 7163-1441
東京サービスセンター	〒169-0073	新宿区百人町2-16-15(MYビル1F)	☎(03) 3363-1650
神奈川サービスセンター	〒228-0012	座間市広野台2-8-21	☎(046) 256-9681
静岡サービスステーション	〒420-0816	静岡市沓谷5-61-1	☎(054) 262-8700
新潟サービスステーション	〒950-0923	新潟市姥ケ山1-5-37	☎(025) 287-7736
中部			
名古屋サービスセンター	〒462-0861	名古屋市北区辻本通1-11	☎(052) 917-2550
金沢サービスステーション	〒920-0036	金沢市元菊町21-87	☎(076) 265-5045
松本サービスステーション	〒390-0832	松本市南松本2-7-30(昭和ビル2F)	☎(0263) 26-7331
近畿・四国			
大阪サービスセンター	〒532-0034	大阪市淀川区野中北2-1-22	☎(06) 6394-8075
高松サービスステーション	〒760-0068	高松市松島町3-1	☎(087) 835-2413
中国			
広島サービスセンター	〒731-0137	広島市安佐南区山本1-8-23	☎(082) 832-2210
九州			
福岡サービスセンター	〒815-0035	福岡市南区向野2-8-18	☎(092) 551-9755
鹿児島サービスステーション	〒890-0063	鹿児島市鴨池2-15-10(パレス鴨池1F)	☎(099) 251-6347
沖縄サービスステーション	〒901-2132	浦添市伊祖1-5-2	☎(098) 874-9010
カスタマーサポートセンター	〒226-8525	横浜市緑区白山1-16-2	☎ (045) 933-5133 FAX (045) 933-5553
カスタマーサポートセンター大阪	〒532-0034	大阪市淀川区野中北2-1-22	☎ (06) 6394-8085 FAX (06) 6394-8308

- ケンウッドサービス窓口　営業時間のご案内
  月曜日～金曜日（土曜、日曜、祭日及び当社休日を除く）午前10時から午後6時まで
- カスタマーサポートセンター　営業時間のご案内
  月曜日～金曜日（土曜、日曜、祭日及び当社休日を除く）午前9時から午後6時まで

（各サービス窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがありますのでご了承ください）

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3

商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、上記のカスタマーサポートセンターをご利用ください。
アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、上記の「ケンウッドサービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービス窓口にご相談ください。